

令和 8 年 3 月 4 日（水曜日）

令和 7 年度南三陸町議会 3 月会議会議録

（第 2 日目）

令和8年3月4日（水曜日）

応招議員（13名）

1番	星	岳大君	2番	伊藤	俊君
3番	阿部	司君	4番	高橋	尚勝君
5番	須藤	清孝君	6番	千葉	伸孝君
7番	佐藤	雄一君	8番	後藤	伸太郎君
9番	及川	幸子君	10番	今野	雄紀君
11番	三浦	清人君	12番	佐藤	正明君
13番	菅原	辰雄君			

出席議員（13名）

1番	星	岳大君	2番	伊藤	俊君
3番	阿部	司君	4番	高橋	尚勝君
5番	須藤	清孝君	6番	千葉	伸孝君
7番	佐藤	雄一君	8番	後藤	伸太郎君
9番	及川	幸子君	10番	今野	雄紀君
11番	三浦	清人君	12番	佐藤	正明君
13番	菅原	辰雄君			

欠席議員（なし）

説明のため出席した者の職氏名

町	長	千葉	啓君
副町	長	三浦	浩君
総務課	長	岩淵	武久君
企画課	長	宮川	舞君

町民税務課長兼
歌津総合支所長
保健福祉課長
農林水産課長
商工観光課長
建設課長
会計管理者兼会計課長
上下水道事業所長
南三陸病院事務部事務長
教 育 長
教育委員会事務局長
代表監査委員
監査委員事務局長
選挙管理委員会
事務局書記長
農業委員会事務局長

芳 賀 洋 子 君
阿 部 好 伸 君
佐 藤 正 行 君
小野寺 洋 明 君
遠 藤 和 美 君
男 澤 知 樹 君
小 野 寛 和 君
佐 藤 宏 明 君
小 松 祐 治 君
及 川 貢 君
横 山 孝 明 君
高 橋 伸 彦 君
岩 淵 武 久 君
佐 藤 正 行 君

事務局職員出席者

事 務 局 長
主 幹

高 橋 伸 彦
佐 藤 美 恵

議事日程 第2号

令和8年3月4日（水曜日）

午前10時00分

開議

第1 会議録署名議員の指名

第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1から日程第2まで

午前10時00分 開議

○議長（菅原辰雄君） おはようございます。

本日は3月会議2日目でございます。本日もよろしく願いをいたします。

ただいまの出席議員数は13人であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（菅原辰雄君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第123条の規定により、議長において5番須藤清孝議員、6番千葉伸孝議員を指名いたします。よろしく願いいたします。

日程第2 一般質問

○議長（菅原辰雄君） 日程第2、昨日に引き続き一般質問を行います。

通告4番、及川幸子議員。質問件名、1、町内観光産業に対する施策について。2、県職員の週休3日制導入に対する町の考えについて。3、伊里前市街地の町有地について。以上3件について、及川幸子議員の登壇発言を許します。及川幸子議員。

〔9番 及川幸子君 登壇〕

○9番（及川幸子君） おはようございます。9番、及川幸子です。議長の許可をいただきましたので、登壇より一般質問させていただきます。

震災から15年の歳月が流れました。あっという間の15年ですが、11日には追悼式、そして待望の港インター下り線開通です。さらには、天皇皇后両陛下、愛子親王様が南三陸町を御視察に御来町されますことは、町民皆さんにとっては心の支えになることでしょう。明るいニュースとなります。

さて、本題に入ります。

3件目の質問のうち、1件目、町内の観光産業に対する施策について町長に伺います。

当町のインバウンド観光は年々増加傾向がありますが、今後も風光明媚な場所や海の幸をPRして町に経済効果をもたらすべきと思うので、次の点について伺います。

1点目、田東山周辺の名所を観光コースに入れ、大型バスを頂上付近まで上げる施策を考えてはいかがでしょうか。

2点目、県のGOLD浪漫がありますが、奥州藤原文化と田東山の関係をアピールすれば、もっと田東山が脚光を浴びるのではないのでしょうか。そこで、歴史や文化震災を伝える語り部やガイドの養成が必要と思うので伺います。

3点目、神割崎からさんさんと祈念公園、それから田東山、それからハマーレなど町内巡りのおもてなしで経済効果を循環させる施策を考えてはいかがでしょうか。

以上、壇上からの質問とさせていただきます。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） おはようございます。

及川幸子議員の1件目の御質問、町内観光産業に対する施策についてお答えをいたします。

初めに、御質問の1点目についてであります。田東山は古くから山岳信仰の霊山として地域の人々の信仰を集めてきた本町を代表する景勝地であり、町内屈指のビュースポットとして毎年多くの方にお越しいただいております。特に5月のツツジの開花時期には山肌一面が燃えるような朱色に染まり、壮観な景色を目当てに多くの観光客が訪れております。

御提案の田東山周辺の名所を観光コースに組み入れ大型バスを頂上付近まで乗り入れる施策についてであります。周辺には穴滝や蜘蛛滝などの自然資源、さらにはウタツギョリュウをはじめとする貴重な化石資源が存在し、これらについて既にパンフレットやホームページ等を通じて情報発信を行っております。

一方で、大型バスの頂上付近までの乗り入れにつきましては、道路幅員の拡張や待避所の整備、対向車対策など相応のインフラ整備が必要となり、多額の費用と自然環境への影響も想定されます。

田東山の魅力は自然と向き合いながら山頂を目指す過程そのものにもあると認識しており、現時点では、既存の環境を生かしつつ安全対策の充実を図る方向で取り組んでまいりたいと考えております。

次に、御質問の2点目についてであります。本町では、平成20年の仙台・宮城デスティネーションキャンペーンを契機に、観光ボランティアガイド、ガイドサークル汐風が発足いたしました。東日本大震災以降は語り部活動へとその役割が重点化されてきた経緯があります。

現在、田東山を含む三陸復興国立公園は、みちのく潮風トレイルのルートとなっており、その中で奥州藤原文化や田東山の歴史的背景について案内を行っており、その中で奥州藤原文化や田東山の案内を行っている団体もございますが、担い手は十分とは言えない状況にあり

ます。

田束山の歴史的価値をより広く発信していくためには、専門的知識を備えたガイドの育成や既存団体との連携強化が重要であると認識しており、今後の観光施策の中で行政体制の在り方について検討してまいります。

御質問の３点目についてであります。現在、本町を訪れるインバウンドは、教育旅行などを目的とした団体バスによる移動が多く、次いで、みちのく潮風トレイルを目的とした徒歩や公共交通機関を利用した個人旅行者が一定数を占めております。教育旅行につきましては、滞在時間の範囲内で可能な限り町内各所を案内し、周遊を促しているところであります。

一方、トレイル利用者につきましては、その目的や移動手段の特性上、広域的な周遊を前提とした行程変更は容易ではない側面もございます。

滞在時間の延伸と町内消費の拡大は、本町観光行政の重要な柱でありますことから、今後は、周遊モデルコースの明確化、二次交通の工夫、デジタルを活用した情報発信の強化などを通じ、町内各拠点を結ぶ回遊性の向上に努め、地域内での経済循環の創出を図ってまいります。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○９番（及川幸子君） それでは、深掘りさせていただきたいと思います。

インバウンド観光は、私の感覚ではさんさん商店街と祈念公園がほとんどだと思います。まず、歌津には化石や歴史ある田束山が今言ったとおりあります。山頂からの眺めは360度の大パノラマです。北は高田の広田湾、西は大崎平野、南は金華山と牡鹿半島の眺望です。大型バスばかりではなく、多くの旅行者に上がっていただければすばらしさが分かると思います。知ってもらうことが大事ではなかろうかと思います。

大型バスとなると、当然、道路の下部などの改修や駐車場が必要となるわけです。先ほど整備には多額のお金がかかるという御答弁でしたけれども、せめて駐車場、現在は舗装になっていない砂利道ですけれども、それだけでもやっていただきたいと思うんですけれども、今後の見通しを町長にお伺いいたします。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） 答弁でお話ししたように、大変重要な施設及び今後とも町内周遊を目指す上で非常に重要な場所だというふうに理解しております。観光客等の入り込み状況等も、毎年一定数の観光客も来町されているというふうなことも踏まえれば、そういったちょっと大型バスはお話ししたように現状では難しい、底すりますので上までは上がれない状況でございますけれども、ちょっとすぐというわけにはいかないんですけれども、ちょっと今年

の5月の状況を見て、そういった舗装が必要というふうな判断になればその辺は検討させていただきます。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） 以前にも大型バスが登った経験がありますけれども、カーブは何とか今の現状でも回れると思うんです、以前上がっているから。今言った大枚をかけないのであれば、せめて砂利道である駐車場だけでも舗装にしてもらいたいというのが私の考えであります。春の今後の観光客の登りようによっては、その辺を今後整備に向けてやってもらうという話を今お伺いしましたので、2点目に入ります。

先ほど言われたように、この田東山は藤原文化と深いつながりと歴史がある山です。そこで、もっとこの歴史をPRするには、多くの町民が田東山を知ることが大切だと思います。

そこで、町民向けの勉強会、研修会などを開催し、その中からさらには語り部やガイド養成などを考えてはいかがでしょうか。一度にたくさんはできなくても年数回開催してもできるかと思うんです。先ほどの御答弁の中に、あるんだけども足りないというお話のようでした。また、田東山は本吉町分もありますので、この本吉町分の連携も必要かと思われるんですけれども、その点、町長どのようなお考えなのかお伺いいたします。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） ガイドの養成につきましては、答弁したとおりでございます。今後やっていくというふうな答弁でございました。いずれ、みちのくGOLD浪漫というのは、2市3町でしたか、涌谷と気仙沼、南三陸、陸前高田、平泉、この5町で連携して行っている事業でございますので、そこは当然講師等も含めて連携してやっていかなければならない。そういった養成も含めて。そこはみちのくGOLD浪漫の事業の中で、たしかそういった観光ガイドの養成セミナー等もやっていたように思っていたんですけれども、そういった部分を利用しながら養成をさせていただければと思います。（「本吉町がないんです」「気仙沼と言ったっちゃ」の声あり）

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） 5町のうちに気仙沼市も入っているから、今、分かりました。

それと、さらに町内に文化財保護委員さんがおりますので、講師としての御協力いただければ幸いでないかと思われます。町民に関心を持ってもらうことが大事だと思います。

また、中学生にも参加していただき、学生ガイドや語り部もボランティア活動として勉強になるのではないかと思いますので、この辺もお願いいたします。

○議長（菅原辰雄君） 教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（及川 貢君） 文化財保護委員というお話が出てきました。文化財保護委員につきましては、本町では6名の方をお願いをして活動していただいております。それぞれ歴史学とか考古学とかそういったジャンルの中で、いろいろな専門的な助言を教育委員会でもいただいているといった状況でございます。

語り部の養成の講師といったところでは、そういった意味から考えると少し役割が違うのかなといった印象も持っておりますけれども、そういった田東山の歴史というか観光を推進するといったところは理解してございますので、何らかの形で関係課と連携をして対応してまいりたいというふうに考えております。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） それでは、前向きに検討させていただきたいと思います。

それから、次に、歌津では震災を伝承する機会と場所がありません。伊里前の町並みはハマーレと国道、ハマーレ公園の下に今現在埋もれております。かもめ館内に震災の映像を映して観光ガイドや語り部を育成すれば、ハマーレにも観光客やインバウンドの観光客の流れができるのではないかなあと思われますけれども、この辺いかがでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） そのとおりだと思います。そういうことで関係機関、みちのくGOLD浪漫のそういった主張を連携しながらガイドを養成していくというふうな答弁をしたつもりでございます。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） 連携は連携としていいんですけれども、独自の町の事業としてそういう今歌津の意向が何もないんです。そうした中で考えられることは、今は田東山は観光のほうで行っていますけれども、町並みが消えて、今、その上にハマーレとか国道とか広場とかが建っていますよという元の町並みを絵図化しておくとか、震災のときの生々しい映像があるんです。歌津の波が来て渦を巻いて流れたって、そういうことをかもめ館の中でその映像を常時流すということも1つの震災遺構を皆さんに語り継ぐ1つにもなるのではないかなということ今伺っているわけなんですけれども、その辺はいかがでしょう。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） そうすると、奥州藤原文化とは別にという意味……。 （「そうです」の声あり） すみません。そういった取組、そういった映像等の入手、あとは放送も含めてでき

るのであればというふうな、ちょっと今何も持ち合わせておりませんので、できるかどうかも含めて検討させていただければと思います。

○議長（菅原辰雄君） 及川議員、通告書に従って、今の行ったり来たりすると答弁するほうもなかなか大変なので、そういうふうに心がけてください。及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） 今、田東山からハマーレのほうに来ていますが、今、確かに志津川のさんさんのほうは充実して道の駅、伝承を伝える伝承館もできております。

しかし、まだ歌津にはそれがないので、今あるものを利用するとなれば、ハマーレのかかもめ館を有効活用するのも1つの手でないかなと思うんです。そこに、先ほど言いましたけれども、当時の伊里前の町が流されていく、そういう映像がありますので、そういうものを常時モニターに入れて、ずっと1日毎日それを流しておくとか、あるいは町並みが写真ではあります。それを絵図化して看板にでも描いて、この下にはこういう町があったんですよということをするのも1つの伝えていくという役目になると思うので、その辺も考えてもらいたいんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） 今、お話しされたかもめ館ですが、町の施設ではなくてまちづくり未来の施設でございますので、ですので、先ほどできるかどうかも含めて……。いい提案だとは思っています。そういった次世代に向けて命を守る行動、そういった震災を風化させない取組を町として行っていくというふうな部分に関しましては、我々の使命だと思いますので前向きに検討はさせていただきますけれども、いろいろちょっと関係者等と協議しなければ、できないとは言えませんので、そこは検討させていただきますというふうな先ほどの答弁と同じでございます。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） 次に、3点目に移ります。

現在は、神割崎キャンプ場は施設を開所されたので観光客も増えております。さんさん商店街、祈念公園もインバウンド観光客が多く経済的効果がうかがわれますので、再三言いますが、歴史ある田東山を整備し震災伝承することにより観光客を呼び込むことができれば、経済効果が循環されハマーレの活性化につながるのでは伺っているわけですが、行政は旗振り役をして、町民が歴史や文化を学びガイドまでできれば、観光客が増えて地域が活性するのではないかと私は思うのでこの質問をしているわけですが、その辺、旗振り役をどのようにするのかお伺いいたします。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） 観光もそうなんですけれども、私、南三陸町の均衡ある発展ということで今この場に至っております。今、お話しされた田東山とかハマーレも含めて歌津地区の活性化というふうな部分を考えて、観光交流施設を今現在計画しているというふうなところでございます。

したがって、今後、そういった観光交流施設で活躍される方は歌津地域の方で、当然、ウタツギョリュウに関しては歌津地区の宝でございますので、そういった部分が生きるような施設整備を今後住民と一緒に考えて設置するというふうなところを考えているというふうなところでございますので、そういった意味で、旗振り役というふうな回答になるかどうかは分からないんですけれども、地域住民と町と一緒に汗をかいて、今後の歌津地区の地域活性化を図っていくというふうなところでございます。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） では、くどいと思われませんが、伊里前の震災前の町並みと震災のときの町が津波で飲み込まれた状況の映像、先ほどから言っています、それをかもめ館ですることが大事。そして、それを伝えて当時の様子を語り部、ガイドが語り継ぐことが非常に大事なことだと思います。今、15年たつとそれを経験した人たちが少なくなって、今の中学生までは経験がない、震災に遭わない子供たちが増えていっています。そういうことから、先ほども中学生の子供たちにも語り部などを協力してもらってはどうかのかなということを話しました。子々孫々まで語り継いでいくということが非常に大事だと思います。

ですから、かもめ館は今町のものではないとおっしゃいますけれども、それは町で造って、まちづくり未来さんですか、そこのハマーレの人たちに、商店街の人たちが使っているという今そういう状況だと思うので、そこにまた……。かもめ館はそうですね。伊里前のまちづくり、伊里前ってハマーレの人たちが管理してそこを使っているということは、そうですね。私の間違いですか。もう一度、じゃあその辺、ハマーレの、すみません、聞き逃したので、ハマーレの今管理はどこでやっているのかお伺いします。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） 繰り返しになりますけれども、やらないと言っているんじゃないんです。やると言っているんです。ただ、関係機関と協議をしないと、すぐにはできないですよというふうなお話をさせていただいているんです。

ですから、関係機関というのは商工会だったりまちづくり未来だったりというふうなところ

と、今後、そういった仕様等の部分に関して協議をして検討してまいるというふうなところでございますので、御理解をお願いいたします。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員に言います。問題を整理して、ちゃんと聞くほうが分かるような質問をしてください。及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） 今、管理はどこでやっているんですかということを知りたいんですけども、まちづくり未来のほうがやっていると私は解釈していますけれども、それでいいのかどうかということです。

○議長（菅原辰雄君） 商工観光課長。

○商工観光課長（小野寺洋明君） ハマーレ歌津の施設につきましては、まちづくり未来が管理しております。かもめ館につきましては、商工会が管理しております。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） かもめ館は商工会が管理ということで、分かりました。

そうしたのであれば、今、私が常時映像を流すということは、あるかもめ館を有効活用すれば、もっともっとお客さんが増えるのではないかなというように申し上げているんです。ですから、そこは早急にまちづくり未来さん、商工会さんとこれ今後協議していくとおっしゃいますけれども、早急にこういうことを考えてもスタートは来年からになってくるので、その辺を有効活用されるようにお願いします。

次に移ります。

国の補助金の中に企業おこし事業があると思いますけれども、観光ガイド、語り部などの養成が終わり次第、この補助金を使い民間経営できるよう指導、支援されたいと思いますけれども、この辺はいかがでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） すみません、及川幸子議員、もう1回質問再度お願いします。具体的な質問をお願いします。及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） 国の補助金の中に、町でもやっていると私思っているんですけども、企業おこし事業があると思うんです。町の事業の中に補助金の中で企業興し。それで、その中にその事業をもらって、観光ガイド、語り部などの養成が終われば、この補助金を使って民間経営できる人も出てくるのかなと思うんですけども、そこまでつながるのか、この企業おこし事業を使って語り部や観光ガイドというものはつながっていくのかどうか、その辺。前の観光課長が詳しいかと思うんですけども、ベテランですから。お願いします。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） 今、お話しされた補助金は、企業おこし事業じゃなくて起業支援、起こす業の支援、起業支援補助金というふうなことで理解をさせていただきますけれども、それには審査がございまして、当然、将来的に自立して事業ができていくとか、それに対してどれぐらいのお金がかかって、費用対効果も含めて、そういった審査を経て認定になる、ならないでございまして、ちょっとこれは詳しくは担当課長にお答えをさせていただきますけれども、どうも今ぱっと思いつきの案というふうなことでは、そういった印象を拭えないものですから、なかなかそこは精査した中で質問いただかないと、ちょっとかみ合わない部分もあるのかなというふうに思っております。

○議長（菅原辰雄君） 商工観光課長。

○商工観光課長（小野寺洋明君） 町の補助制度等で起業支援という制度がございしますが、これは新たに起業する方、もしくは起業している方で新たな業種を始める方が対象でございまして、町からやってくださいとかではなくて、あくまでも起業側が業務を興めますので補助金をくださいという制度でございします。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） なかなか歌津のほうでもそういう語り部とかそういうことをしようとしても、なかなかハードルが高いんです。私は再三その人たちに、低い部分からまずは町内の文化財、それから観光スポット、そういうようなところから気軽にやって、そして1年を通して勉強して、そしてステップアップして、今度は観光ガイド養成とかそういうものをしていって、さらには自分たちで今企業を興すグループの人たちで立ち上げて、業としてやっていけば、それも将来性があるのではないかなと。若い人も出てくるし、いろいろなジャンルの人たちがそういうことを年齢差もいろいろで様々そういう企業を興して、それはなりわいとしてやっていけるのではないかなという思いから質問しているわけですので、その辺を今後とも考慮しながら、いつまでその制度があるか分からないんですけれども、行く行くはそういうふうな自分の仕事として捉えてやっていくんだと、ボランティアもいいですけども、ボランティアではなくこういう仕事もできるんですよと言え、やる人も本気度とかそういうものも出てくると思うので、その辺を私期待するんです。

今後の施策にそれを取り入れてもらいたいと思うんですけれども、その辺いかがでしょうか。再度お伺いします。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） 先ほど担当課長のほうからお話ししたように、町からやってくださいと

いう補助金ではないので、そこは自立して活用できるというのであれば、それはどうぞよろしくお願ひしたいというようなところでございます。町がそれに対して支援するとかそういうことではないです。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） それは分かります。企業を興した人たちから、こういう事業をやりたいから補助してくださいということは分かります。その前の段階で、もうハードルが高い。語り部、最初から企業興しというハードルが高いから、その前段階で養成、研修、勉強というものの人を確保しなきゃならないわけですね。

だから、そういうところのPRも含めてもっともっと必要なのではないかなと、今、語り部、そういうものは充足していないと私思うんですけれども、もっと増やすための施策をどうやったらできるかということを考えてもらいたいということです。いかがでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） 繰り返しになりますけれども、ですから、そういった関係団体、先ほどお話ししましたみちのくGOLD浪漫の団体とかそういった方々と交流を深めて、そういったガイドの養成講座に行くとかそういった部分で、ガイドは養成というかそのような及川議員言うような形になればいいのかなというふうに思います。

何度も言いますけれども、町としてはそういった、こういった団体がありますとか、この人につながればそういったガイドの案内というのはできますよといった部分の紹介というのは、やぶさかではございません。ただ、なりわいというふうなことに結びつく、そういった部分で補助金というふうな部分に関しては、これまで答弁したとおりでございます。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） 少しかみ合わない部分があるんですけれども、そのなりわいという部分は最後の、何年かかるか分からない、まずスタートは一般の人たちが気軽に受講できる研修会とか勉強会とかそういうことをやっていただけないかなというのが基本です。最後、いっぱいそういう語り部とかそういう人たちが出てくればいいんですけれども、まだ充足率が足りないと思うから、初歩的なところでのことを地域の人たちに広く知ってもらうための施策、そういうことをしてもらいたいと思うんですけれども。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員、この件に関して、自分でリサーチをして現状を把握して、今、こういう課題、問題があるのでこういうことで提案型でやってもらおうと話のかみ合うと思うので、現状、多分こうでしょうというあなたの思いは分かりますけれども、それで進め

たのではなかなか議事はかみ合わないので、その辺を篤と考えると発言してください。及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） 私は何も難しいことを言っているんじゃなく、今、一般の町民の人たち、そしてあわよくば中学生の子供たちに、町の現状、観光でもいいし震災でもいいし、そういうものを研修させて、その中からステップアップさせていったほうがいいのではないかなと。だから、そういう研修の場所とか勉強の場所をつくっていただきたいということを言っているんですけども、でもかみ合わないですか。

○議長（菅原辰雄君） 商工観光課長。

○商工観光課長（小野寺洋明君） 町長の答弁にもございましたとおり、過去にデスティネーションキャンペーンというものがございまして、それを契機にふるさと観光講座というものを開催しております。そのガイド育成講座を経て認定されました方々でガイドサークル汐風ができたという経緯もございますので、町長申し上げたとおり、みちのくGOLD浪漫の研修とか、あとは町のふるさと観光講座に代わる講座などを開いて、ガイドの養成などできたらと考えておるところでございます。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） とにかくガイド養成とか今足りないという先ほどの御答弁もあったんですけども、どんどんその辺をPRして、今まで以上に人を集めて勉強してもらって、そしてガイド養成、これ以上もっともっと増やしていくべきだと思うんです。それには興味を持ってもらって、そして何回でもいいから年に1回、2回語らないでしょっちゅう気軽にその学びの場に出てこれるというような機会を設ければ、もっとそういう語り部の人たちとかボランティアも増えてくるのかなあという思いで質問しているわけです。

時間もありますので、次に2件目に移らせていただきます。

2件目、教職員の週休3日制導入に対する町の考えについて。

宮城県では、令和8年1月から、全職員に対し業務量や生活状況に応じて柔軟な働き方を選択することを狙いとした選択的週休3日制を導入しました。これに対する当町の考えについてお伺いいたします。

1点目、この制度をどのように受け止めているか。また、町としての今後の方針を伺います。

2点目、残業が多い職員も見受けられるが、現状から見てこの制度が職員にとってよい影響を与えるかどうか伺います。

3点目、職員採用に当たり、この制度の有効性を考えた場合、どの程度の効果があると思う

か。

その３点お伺いいたします。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） 及川幸子議員の２件目の御質問、県職員の週休３日制導入に対する町の考えについてお答えいたします。

まず、本年１月から宮城県が導入いたしました選択的週休３日制は、フレックスタイム制を活用し、職員の希望により１週間の勤務時間、常勤職員であれば１週間当たり３８時間４５分の時間を４日に振り分け、週休３日の働き方を可能とする制度です。

御質問の１点目につきましては、選択的週休３日制は、職員一人一人の事情やライフスタイルに応じた多様な働き方を可能にする点において、一定のメリットがあるものと受け止めております。

一方で、当組織においては、限られた職員数の中で業務を円滑に遂行する必要があり、住民サービスや業務の維持と向上を最優先に考えた場合、勤務日数や勤務時間の配分によっては、特定の職員に負担が偏る可能性や組織全体の連携、即応性に影響が生じる懸念もあると認識しております。

そのため、導入の是非については、業務体制への影響、職員間の公平性、何より住民サービスへの影響といった点を総合的に勘案しながら、慎重に検討してまいりたいと考えております。

御質問の２点目につきましては、御指摘のとおり、現状では一部の職員において超過勤務が常態化している状況も見受けられております。そのような中で選択的週休３日制を導入した場合に、１日当たりの業務負担の増加や周囲の職員への業務のしわ寄せが生じる可能性も否定ができず、必ずしも職員の負担軽減や働きやすさの向上にはつながらない懸念もあると認識しております。

まずは、超過勤務の要因の分析及び業務の平準化、効率化に取り組むことが重要であり、その基盤が整った上で、初めて選択的週休３日制が職員にとって真により影響を与える制度となり得るものと考えております。

御質問の３点目につきましては、職員採用の観点から見ますと、選択的週休３日制は働き方の選択肢を広げる制度として一定のアピール効果が期待できるものと考えられる一方、求職者が応募の際に重視するのは、仕事内容のやりがいや組織風土、処遇、成長機会など総合的な条件であり、週休３日制のみで応募者が増加するとは言い切れないと考えております。

また、制度を導入しても、実際に利用しやすい職場環境が整っていなければ実効性のある魅力にはつながりませんので、引き続き職員が働きやすい職場環境づくりに取り組んでまいります。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） 今、書き残した部分もありますので、また、この問題については昨日、千葉議員も聞いておりましたけれども、重複するところがあれば、そこは昨日言ったよということで結構ですので話していただきたいと思います。深掘りさせていただきます。

1点目なんですけれども、私たち、我々の時代とは違って今は職場環境が大きく変わっております。そして、価値観も違って、今、自分に合わないと思ったらすぐ転職する人が多くなっている時代だからやむを得ないということは分かります。公表できる範囲でいいですので充足率、ここ3年間で定年前に何人の方がお辞めになっているのか、その辺お伺いいたします。

○議長（菅原辰雄君） 総務課長。

○総務課長（岩淵武久君） 今、及川議員からお話のあった定年前ということなんですけれども、御案内のとおり再任用制度が始まってございまして、役職定年等といったものもスタートして定年自体が延びてございますので、お話の御趣旨からすれば、職員の採用等といったお話につながるんだと、魅力とか、ですので、震災後の採用された方々の離職の状況といったことについてちょっとお話をさせていただければと思います。

平成25年度採用以降として御理解をいただきたいんですが、これまでで男女合わせまして離職者数の数といたしますと60名を超えてございます。令和6年までですけれども。離職率といたしますと、平成25年度以降の採用の方々の離職率は本町31%となっております。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） ありがとうございました。

31%ということなんですけれども、結構多い数字だと思います。先ほども町長答弁ありましたけれども、この31%、今の人たちはここに勤めるとずっとそこで仕事していくという考えではなくて、自分に合わないから辞めて次の職場を探す、これは今の若い人たちのスタンスで分かるんですけれども、職場環境についてお伺いします。

職員から相談が上がってきていると思うんです、しょっちゅう。心の病気になっている人とかいろいろあってもなくても、職場の悩みを聞くという担当もいると思うんです。相談受付窓口があると思うんですけれども、その部署になるか個人になるか分からないんですけれ

ども、その機能を十分発揮しているのか、職員の困り事相談などに前向きに取り組んでいつているのか、その辺、まずもってお伺いします。

○議長（菅原辰雄君） 総務課長。

○総務課長（岩淵武久君） まず、前提といたしまして、先ほど私、いわゆる震災後採用の方々の離職率といったものが3割を超えるといった形でお話をさせていただきました。昨日、町長答弁にもございましたとおり、国家公務員の総合職でも20%を超える方々の離職といった現況にございますので、本町がとりわけ何か特殊な事情で際立って離職率が高いといったことではないという前提の下でお話をさせていただければと思います。

それぞれ職員の方々、様々私生活を含めまして悩み事とかいろいろな課題、問題を抱えられているのは事実だと認識してございます。昨日のお話にもあったかと思うんですけども、いわゆる令和4年度に行政管理課のほうを設置した後に、住民の方々からの苦情、御意見を受け付ける窓口といたしましては、おらほの相談窓口といったものを開設させていただきました。

一方で、いわゆる職員の何かしら公益通報的な内部通報も含めて相談事、困り事、そういったことがある場合は、遠慮なくヘルプラインという形の制度を使ってお寄せいただくといいますか、解決のきっかけとしていただきたい、解決につなげていただきたいという仕組みをつくってございます。実際の活用実績といいますか使用実績もこれまで毎年度ございますので、職員の皆様からの相談事の受け付けの体制といったものは、従来と比べればある程度整理はできているんだろうと考えてございます。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） 今、ヘルプラインということが分かりました。そのヘルプラインに職員本人が直接ヘルプラインするわけですがけれども、それが機能を十分しているのか、それを利用している人たちがいるのかどうか。簡単に機能しているとかしていないでもいいのです、何人までいいですから、利用されているか、されていないかぐらいは話していただきたいと思います。

○議長（菅原辰雄君） 総務課長。

○総務課長（岩淵武久君） 継続して設置してございますし各年度の実績といったものもございまして、機能しているか、していないかといったことであれば、こちらの設置者側からいたしますれば機能しているといった認識でございます。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） この県の導入を町長答弁ですとあまりよくは、難しいというような御答弁でしたけれども、この導入に対してアンケート調査してみてもいいかなあと思うんです。これのアンケート調査を委託すると時間、お金がかかるので、簡単によいか悪いか、あとは自分の意見を書く欄だけであれば、課内で課長がそれを集計して、さらにその課内の分を総務課長が全部集計すれば1か月ぐらいで結果が出るかと思うんですけれども、そういうアンケート調査など、働き方改革導入するに当たって大きな指数になるのではないかなと思われるので、その辺いかがでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 総務課長。

○総務課長（岩淵武久君） 確かに職員個々のライフスタイルですとかあるいは価値観といったものも変化、多様化してございますので、従来と比べれば様々なニーズがあるのは確かだろうとは認識してございます。

一方で、先ほど町長からの答弁にもございましたとおり、やはり我々、町民の皆様と密接に関係する基礎自治体でございますので、職員の方々のライフスタイルや価値観に照らしてどういった働き方を希望されるかといったことよりも、その前段階として、住民皆様のニーズに、果たして組織としてアンケート等をやって取りまとめた結果が直接に正しくリンクするのかといったことを見極めた上でないと、職員の方々に対して何か期待をさせるようなアンケート調査といったものは、私はそれは軽々に実施すべきものではないと考えてございます。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） 仕事というのは、やはり好き嫌いというものもあると思うんです。この分野が得意だから一生懸命やろうとか、これよりもこっちがいいとか、それは人だから仕方がないと思うんです。全部仕事だからしたほうがいいと言え、そういう人はするし、自分の得意分野だけしたいという人も思っている人もあるから、そういう観点からしても、アンケートを取って、できれば自分のいたい部署で仕事したいところでやったほうが、効率的にもいいのではないかなと思うんです。最初から住民サービスを考えるにしても、そのアンケートを基にした部署に張りつけするのも効果があるのではないかと私は思うので、今言っているわけです。

2番目に移ります。

残業の多い職員もいると思うんです。この制度は職員にとってはやはりよいことでは、県のこの事業は、先ほどの町長答弁ではあまり適していないというような話でしたけれども、懸念があるということでしたけれども、残業を多くしているところのサポートといたしますか、

そういうことはどのように考えているのか。ずっとその人は残業が1年間多くなっているけれども、それでよしとしているのか、そこを何とか課内でサポートしていこうとしていることを考えているのかどうか、その辺伺います。

○議長（菅原辰雄君） 総務課長。

○総務課長（岩淵武久君） まず、先ほどの話とも共通いたしますけれども、最終的に議員がお話しされていることを、平準化といいますか課題を広く解決していくといったことが、まさに4月等に行われる人事異動による適材適所といったことの整理なんだという前提の下にお答えをさせていただきます。

御承知のとおり、例えば、先日、実施されました解散総選挙のように突発的な業務等もございますので、特定の部署あるいは職員に時間外といったものが著しく偏るといった実態があるのも確かでございます。当然、時間外勤務といったものは、監督者である係長等あるいは管理者である課長等の手続を経まして時間外勤務命令といったことでの発令となりますので、我々管理職含めまして管理監督者といった職員については、部下と言われる方々の勤務状況といったものはつぶさに把握をさせていただいているといった状況でございます。

また、庶務管理システムといったものを導入させていただいてございまして、従来の紙ベースの出勤簿といったものから、今現在は、出勤、退勤の時刻をリアルタイムで打刻するといった仕組みも職員に用意といいますか整備、配備してございますので、そういった実際何時に退庁したのかとかそういった情報を管理職等がしっかりと把握することによって、特定の職員の時間外労働超過勤務が当たり前として続くといったことの是正にはつながるんだろうと今現在では考えてございます。

○議長（菅原辰雄君） ここで暫時休憩いたします。再開は11時20分といたします。

午前11時01分 休憩

午前11時20分 再開

○議長（菅原辰雄君） 休憩前に続き会議を開きます。

及川幸子議員の一般質問を続行いたします。及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） では、この県の制度は強制ではなく各職員の考え方に任せているので、私的には大変よいことだと思います。当町の場合、休日出勤したときは振替休日取れているのかどうか、その辺伺います。

○議長（菅原辰雄君） 総務課長。

○総務課長（岩淵武久君） いわゆる週休日等に勤務といった場合は基本振替といったことをさせていただいてございますし、振り替えるのが事実上困難だといえば時間外といった対応をさせていただいてございます。いわゆるそういった勤怠管理といったものは、先ほど申し上げましたシステム上も含めましてしっかりとできているといったことで御理解をいただきたいと思います。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） 一番は病気になるということが本人が一番苦勞するので、その辺のないように周りも考慮していただきたいと思います。職場環境、今言ったように一番大切です。楽しく働いていただくためにも、各課ごとにチームでこの職員の環境問題に取り組んでもらいたいと思います。

2点目、これで終わりといたします。

次に、3点目に移らせていただきます。

伊里前市街地の町有地について、ハマーレ南側公園は、信号機も設置され安全な環境となりました。有事の際には出口が1か所だけで混雑が想定されることから、次の点について伺います。

1点目、公園を造成した際に、町と国道の協議不足により国道と町有地の境界に大きくくぼ地ができて利用価値がない状況であります。その土地を埋め整地すれば出入口も可能となり有効活用できると思うので、今後、国と協議をすべきと思うが、その点のお考えをお伺いいたします。

2点目、歌津は海の町でもあるのに、公園や駐車場から海が見えない。何事も完成した後のことまで考えて設計や工事遂行するべきではないかと思います。一事が万事のことわざもありますので、その辺お伺いいたします。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） 及川幸子議員の3件目の御質問、伊里前市街地の町有地についてお答えいたします。

初めに、御質問の1点目、町と国道の協議についてであります。まず前提として、伊里前市街地整備については、国道45号線の復旧工事が先行して着手されました。その工事の一部として、くぼ地の底には側溝が入っております。当時、伊里前南側エリアは、変形地であることや一部民地を含んでいることから、町としては具体的な土地利用の計画はなく、側溝の付け替えの必要はないと判断し、現在の形状となったものでございます。

今後、具体的な土地利用が発生した場合には、費用対効果を含め国等関係機関との協議を検討してまいりたいと思います。

次に、御質問の２点目についてであります。伊里前南側の整備においては、防潮堤の高さ等、復興事業の制約の中で設計を行った結果、海が見えない状況となっております。

今後の公共事業の執行においては、完成後の利用イメージをより重視した設計や地域の景観資源を生かす視点等を重視して、地域住民に親しまれる空間づくりを進めてまいりたいと考えております。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○９番（及川幸子君） ありがとうございます。

今、答弁もらって、今後利用があれば国との協議もやぶさかではないということを回答いただきました。

そこで、この南側の土地利用計画図面を確認したら、くぼ地が67メートルあるんです、そこを測ると。かなり結構あるんです。ここに駐車スペースを造ると30台ぐらいが駐車できます。町の財産は町民の財産です。だからこそ、有効活用しなければならないと思っております。危険なくぼ地としておくよりは、国道にお願いしてはいかがでしょうか。ここは緑地で三角土地となっております。今、御答弁いただきましたけれども、さらにお伺いいたします。

○議長（菅原辰雄君） 建設課長。

○建設課長（遠藤和美君） 議員御承知のとおり、当該地は緑地という扱いになっておりまして、現状はそういう宅地としての、あるいは駐車場としての土地利用の計画はないという状況でございます。駐車スペースが不足しているのかと申しますと、日常を見ておりますと現在の駐車場で十分足りているのかなあという感覚でございます。

それから、くぼ地と呼ばれている部分でございますが、こちらにつきましては、我々がこの土地の調整の設計をした際に、基本的にはインフラ整備の困難さなどから、この、三角地については緑地として土地利用計画を設定させていただいておりますので、その緑地に対して、当時あった側溝を暗渠にして新たな形に造り変えるという工事費用をかけてまでこの緑地の部分を整備する必要があるのかというのを内部で検討した結果、基本的には現しの側溝ということになっています。

ここを埋めれば出入りが自由になるんじゃないかというお話なんですけれども、一見そう見えるんですが、現状、この緑地には宅地側に１か所乗り入れがございまして。当然、国道沿いに歩道がございまして、ここを仮に埋めたとしても、この緑地から全面的な乗り入れがで

きるようになるかという、それは基本的には歩行者の安全上を考えてできないということになります。分かりやすいところで申し上げれば、向かい側のハマーレさんなんかも基本的には乗り入れの箇所は1か所ということで、そういう安全性を考慮した出入口になるということで設置がされているということでございます。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） 今、るるお伺いしました。それは分かります。

それから、ハマーレ公園から1か所、道路が2区画分についております。それ以外は、内側からは道路、内側から区画整理のほうに入っていってからは道路が2区画分しかついていないんです。その中、道路がついていないんですけれども、町の区画整理で買う人が現在いないから今でもあのようになっていると思いますけれども、道路がない分、蓋のない側溝、今言っていたのは国道45号線側ですけれども、私、今これから話すのは護岸側です。護岸側に100メートル以上の側溝が入っているんです。その側溝に、蓋かけ側溝なのになぜ蓋をかけなかったのか、危険と思わなかったのかどうかということです。その辺、御答弁をお願いいたします。

○議長（菅原辰雄君） 建設課長。

○建設課長（遠藤和美君） 当時、その設計を行った際に、議員御承知のとおり隣接の防潮堤が南側にあると。基本的にはこれ県産の関連施設になってございまして、これちょっと想像というか推測になるんですけれども、基本的には、車両を乗り入れてこの防潮堤を管理するために伊里前南側の開発地との間に一定の空間、車両が通れるぐらいの県用地が確保されているというふうに認識しております。基本的には、この伊里前南側広場にお越しになった方が入る場所ではなくて、県さんがそういう管理用の通路として恐らく側溝が入っていると。すみません、私ちょっと現地で詳しく見ていないんですけれども、恐らくそういう形なんだと思います。

ただ、物理的に管理用地と開発した区域を遮るものというのは現地にはたしかなかったはずですので、そこは安全性が確保できているのかどうかというのは、県さんともここちょっと話合いをしてみたいというふうに思います。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） そのとおりなんです。車が通るぐらいのスペースが護岸側にずっとついているんです。その真ん中にU字溝、側溝が入っているんです。そうすると、それも蓋かけ側溝が入っているんです。そうすると、何でこれ、私も素人だから、蓋かけ側溝なのに何で

蓋がないんだろうと。これは入ったら、私みたいな慌て者が足を踏み下ろすとけがしてしまうんです。そうすると、けがした場合どこで責任取るかという、町が管理しているから、あそこは全部県の護岸ですけども、国道のくぼ地もそこでけがなんかすると管理している町の責任が出てくるんです。そうしたことを考えると、あれは蓋かけをしてもらいたいと思うんです。

あの緑地になっている部分ですと、景観がいいんです。海も川もあそこから見えるんです。むしろ、あそこを蓋かけ側溝にして緑地にあずまやでも建てれば、そこから海が見えるし、場所的にもそういうところなのでいいのかなと思われそうですけれど、その辺いかがでしょうか。

そして、さらにこれに蓋をかければ、有事のときに、今、信号がついてあそこに何かあると混雑するんです、その信号があるがゆえに。ふだんはいいんです、信号があつて、安全性が確保するから。有事なときは、人の心理としては信号で待ったりすると危険な状態になるわけです、1か所ということ。そうであれば、そっちの護岸が100メートルもあるんですから、護岸側から一方通行で抜けられれば、これまたいいのかなあという思いがするので、その辺を伺っているんですけども、国道から何も入らなくても一方通行で出るということをすればいいのかなあと思いますので、その辺、今後の協議としてできるかどうかお伺いいたします。

○議長（菅原辰雄君） 企画課長。

○企画課長（宮川 舞君） 町有地ということなので私のほうから答弁させていただきますけれども、ただいま建設課長のほうから御答弁ありましたとおり、今現在、町としてこの緑地の部分に車の乗り入れ、いわゆる駐車場としての利用計画はございませんので、その点は今後必要があれば検討していくというような形になります。

○議長（菅原辰雄君） 建設課長。

○建設課長（遠藤和美君） 避難路等の考え方ということでございますが、先ほど申しましたとおり、防潮堤付近の通路につきましては県の管理用地ということでございますので、そこを避難路扱いするというのは、ちょっと我々としては考えていないという状況です。あくまでこの付近の避難先は歌津中学校ということになっておりますので、中央の道路等を使って、開発地の真ん中にある道路等を使って避難をしていただくという考え方だと思います。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） ふだんはいいんです、信号があるから。有事のときを想定すると、心理として早く行かなきゃならない、抜けなきゃならない、そういうことを考えると、やはり私的にはそこを県と協議して、幅があるんだから、県と相談して有事のときここを使わせても

らうことはできないでしょうかというぐらいの相談はすべきだと思いますけれども、今後です。

そして、そのためにも、あそこを県の通路としているのであれば、側溝に蓋をかけてもらうとより安全にあの場所が使われると。あわよくば緑地として使っている眺めがいいところで、それは町で造るものですが、あずまや等も設置してというようなことまで県と相談していただきたいのですが、いかがでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 総務課長。

○総務課長（岩淵武久君） 有事の際の避難ということでしたのでお答えをさせていただきますけれども、今回の議会冒頭の工事関係行政報告にもございましたとおり、今回、ハマーレ付近に避難誘導看板といったものを2基設置という段取りをさせていただいております。

先ほど建設課長申し上げましたとおり、こちらの場所に滞在された方々の避難所となりますと歌津中学校となりますので、最も安全に確実に避難できる場所に避難誘導看板といったものを今整備を進めてございますので、基本的には避難の流れとすれば、ラインとすれば、先ほど建設課長が申し上げた流れが混乱等なくスムーズに避難所までたどり着けるのだろうと考えてございます。

○議長（菅原辰雄君） 建設課長。

○建設課長（遠藤和美君） 今、総務課長申しましたとおり、県の管理用地の部分の蓋というのは、避難路として使うことは別な形で、安全対策ということで県と相談をしたいというふうに思います。

○議長（菅原辰雄君） 企画課長。

○企画課長（宮川 舞君） 私のほうからは、先ほどあずまやの設置というお話でしたけれども、この場所につきましては、地域皆様の憩いの場としてハマーレ広場にその機能を設置してございますので、現在のところ、こちら緑地のほうに新たにあずまやなどの設置は計画してございませんので、ぜひ、そういった部分につきましてはハマーレ広場のほうを御活用いただきたいですし、また、緑地のほうにそういったスペースを確保しない計画といたしましては、やはりこの場所に、町長答弁でも申し上げましたとおり、民地を含んでおりますので、現在のところそういった計画はございません。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） じゃあ、民地があることは、信号から入っているところなんですけれども、今私言っているのは、三角地点で使われないところなんです。そこを緑地としてあるから、できれば三嶋神社の下のように、あそこも緑地になっているんですけれども、芝

生を植えて緑地、眺めが海が見えるので、あそこ一番三角で変形的な土地なんですけれども、すごく見晴らしがいいんです、あそこの三角地点が。だから、ましてや緑地になっているので車も入れない。以前、私、お祭りのとき、ハマーレにはいっぱい満車満車となるから、できればそっちの南側の公園のほうに車を入れさせたほうがいいのではないのと言ったら、抜かるからそこは車入れられないんだという答弁でした。緑地だから抜かる、抜かるから緑地にした、最初はどっちでもいいんですけれども、今、車を入れることは困難で、今後もその緑地に車を入れないということは、今確認して分かりました。

それは分かったので、できればあそこは見晴らしのいいところですから、そこに芝生を植えて、椅子だけでもいいので、椅子だけってこれから暑くなるから、暑くなったときには少しぐらいの屋根、何もふわふわドームがあるような大きなあずまやでなくて小さいのでいいから、そこに設置すれば、町民の人たちも観光客で来た人も座って海が眺められる、そういう環境になるので、今、私はあえて言っています。だから、そういうことをすぐでなくてもおいおいにはそういうことも検討させていただきたいと思うんです。

次、２点目に入りますけれども、その前に、先ほど建設課長の答弁で、今後とも通路のところの蓋かけを協議してもらえそうなので、ぜひ、あそこは蓋をかけておかないと、暑くなって夕涼みなんか来た人たちが足を入れると事故につながりますので、その辺は今後とも十分意を用いて県と協議していただきたいと思います。

それから、次に２点目に入ります。

ここのハマーレ公園は復興予算で完成しましたが、残念ながらそっちの公園のほうは海が眺められない地盤です。非常に残念に思うので、今、こっちの三角の緑地のほうにそういうことを設置してもらいたいということを、水産の町だからそういうことを、海が見える必要があるから、観光客の行きたい人たちに座って海を眺めて涼んでいただいてもらいたいから今言っているわけなんですけれども、その辺お願いいたします。

今、できたのに何だかんだと言うことは、私は決して責めているわけではないんです。責めているわけではないけれども、できたものを有効活用するためには、危険回避をしてどうしたら有効活用できるかということを考えてもらいたくて言っているんですから、こんな工事をして云々と決して責めているわけではございません。

今後、こういう個々の工事だけでなく、町は毎年いろいろな工事をしています。やはり工事をしたとき、完成のことまで考えて職員の人たちに業務に携わっていただきたいと思うんです。さっき申し上げましたように、一事が万事ということわざありますけれども、それが

このような結果につながっております。ですから、くどいようですけれども、担当課で綿密な協議をしてみんなで共有して、どうやったら効果のある仕事ができるかということで共有してもらいたいです。

町民は職員を信用して任せているんです。石泉線の電柱の件もそうですけれども、簡単に移設できたんじゃないですか、これは。最初はあれで電柱を残したままで完成してお金払って、でもここで住民がこういう困り事が危ないですよと言ったことによって……。

○議長（菅原辰雄君） 及川議員、質問をお願いします。

○9番（及川幸子君） それが結果として、すぐ移設できました。そういうことは後のことまで考えて私は職務を遂行してもらいたいと思うんです。

責めているわけではないということは分かったでしょうから、今の答弁でおいおい、すぐになくてもいいですので、三角土地、緑地、三角の緑地です。こっちのある緑地でなくて、三角の緑地を有効活用してもらうために、企画課長の答弁ありましたけれども、聞いたらないということなんですけれども、今後、それらを検討していただくわけにはいかないでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 企画課長。

○企画課長（宮川 舞君） すみません、繰り返しになるようで大変恐縮なんですけれども、今はそういった計画はございませんので、今後、引き続きやはり利用者の方々のニーズや費用対効果も考えながら、慎重に検討が必要ではないかと考えております。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） 費用対効果は分かります。しかし、今、一番最初の観光の部門でも話しましたが、観光客を呼び込むための施策の一環として私は捉えた場合は、やはりあの緑地をそのままにしているのではなくて、小さくてもいいから、当分は椅子だけでもいいんです。そして、それを見て、あとはじゃあ屋根のあるあずまやにしましょうかとか、そういう考えもあると思うんです。何も最初から何千万円かけて何百万円かけて設置しなくても、やり方はいろいろ工夫すればあると思うんです。だから、そういうことを設置しながら観光客を呼び込む、そういう施策を考えてもらいたいと思うんですけれども、町長いかがでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） 先ほど、私、答弁しましたけれども、観光交流施設を建てるとお話をさせていただきました。その場所に関しては、今後、町民皆様の、あとは関係者も含めた中

で検討をさせていただく。ただ、私は、効果といたしましてはハマーレ歌津ですとかの隣接地にないとうまくいかないんじゃないかなというふうなことは思っているんですけども、そういった中で、今後、総合的にこの三角地も含めた利用というのは、町民の皆様の間の中での協議の中で、もし及川議員がそこまで重要視しているというふうなことであるのであれば、議論のテーブルに乗ってくるのかなというふうに思っておりますので、そこは今後の住民同士の協議の中で答えが導かれるのかなというふうに思っております。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） 分かりました。町民の声が大事ですから、やはり。

私もあそこに下りて気づいたんです。あの現場を見に行って、あ、ここはいいところだなと。そして、ましてや緑地になっている。芝を植えてからに、そういうことにすれば、お客さんもここに夕涼みにも地元の人も来るのでないかなあという思いで質問させていただきました。

そして、もう1点なんですけれども、あそこに工事するとき、追加であの境界にフェンスをしたわけなんですけれども、後になって、今、まだこの宅地は売れていないんです、町のものなんですけれども、お金をかけてフェンスをしたその意味がどこにあったのかなと今でも疑問に思うわけです。当時を知る人がいれば、なぜああいうことをしたのかなあ、あしたに工事をするにも邪魔になるんです。境界の入りはどこの道路でもみんな、うちでも境界ぐいがあるはずですから、境界ぐいで間に合うはずなんですけれども、何でお金かけて、ましてや追加までしてからにあのような立派なフェンスにしたのか、その辺を最後にお伺いします。

○議長（菅原辰雄君） 建設課長。

○建設課長（遠藤和美君） すみません、私、当時担当しておりませんので詳しい内容はちょっとよく分からないんですが、緑地側のほう、くぼ地になっていると再三お話しになっている部分が、基本的には国道用地になっていますので、従来、あそこ多分ずっとくぼ地の状況で側溝が入っていたのを宅地利用するために宅地の部分は埋めたと。当時は、国道さんが転落防止のために格子状の柵をつけて、転落防止に使っていたということで設置されているというふうに理解しております。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） そこでなくて、私言っているのは、今区画整理した中、全部フェンスがあるんです。なぜあのような形になったのか。境界でなくて今売れていない土地があるんですけれども。

○議長（菅原辰雄君） 企画課長。

○企画課長（宮川 舞君） 大変申し訳ございません。私も当時担当はしていないんですけれども、それぞれ先ほどお話ししましたとおり民地を含む区画ですので、その民地と町有地の部分を分けるための区画をはっきりとさせるための境界であったかなと思います。

○議長（菅原辰雄君） 及川幸子議員。

○9番（及川幸子君） 何もそんな立派なフェンス、境界であれば境界ぐいがあるから追加補正予算取ってまであのような立派なフェンスを各区画ごとにやらなくてもいいと思うんですけれども、何で追加してまで余計なお金かけて立派なものを造ったのかということです、私聞きたいのは。

○議長（菅原辰雄君） 企画課長。

○企画課長（宮川 舞君） ただいま申し上げましたとおり、ちょっと当時の明確な理由は私のほうからはお答えできかねるんですけれども、先ほど町長答弁でお話いたしましたとおり、今後のそういった公共事業におきましては、議員おっしゃるような内容も含んで意を用いて取り組んでまいりたいと思います。

○議長（菅原辰雄君） 以上で及川幸子議員の一般質問を終わります。

次に、通告5番、伊藤俊議員。質問件名、1、復興から次のステージへ向かう観光業とは。

2、未来の命を守るため今まで以上に災害伝承の取組強化を。以上2件について、伊藤俊議員の登壇発言を許します。伊藤俊議員。

〔2番 伊藤 俊君 登壇〕

○2番（伊藤 俊君） ただいま議長に許可をいただきましたので、2番、伊藤俊は壇上から1件目の質問を行います。

質問件名は、復興から、次のステージに向かう観光業とはと題し、町の考えをお尋ねいたします。

新たなまちづくりを進めていく中で、よきものを残し、伝え、変化すべきものにどう向き合い挑戦していくかが大事な今だと思います。たくさんのファンがいる南三陸町の観光業発展のために、町長にその考えを伺いたく思います。

質問要旨としましては、現在、町の観光業を取り巻く環境は、震災やコロナ禍を経ても依然として厳しいと感じております。様々な現実的課題はあるものの、観光業の活性化を図ることは、あらゆる産業に効果が波及し持続的な経済循環のエンジンとなるからこそ、実効性があり、かつ課題競争の中で当町ならではの強みを伸ばしていく施策を望みます。

観光に対する価値観の変化、多様化が進む中で、震災復興から次の未来へ向かう観光につい

て考えを伺うものであります。

1 点目は、産業振興における観光業の位置づけ、方向性の考え方は。

2 番、目的地化していくための具体的アクションは。

3 番、観光にもネイチャーポジティブの考えが必要では。

4 番、宿泊税に関する宮城県の施策について捉え方は。

以上について、壇上からの質問となります。答弁よろしくお願いいたします。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） それでは、伊藤俊議員の 1 件目の御質問、復興から次のステージへ向かう観光業についてお答えいたします。

初めに、御質問の 1 点目についてであります。本町において観光は単独の産業ではなく、農業、林業、水産業、商業、運輸業、宿泊業など多様な分野と密接に結びつく総合産業であると認識しております。一次産業が元気であるからこそ、魅力ある食や体験が生まれ、観光が活性化することで域内消費が拡大し、各産業の付加価値向上につながるという相互循環の関係にあります。

そして、方向性の考え方については、震災復興のフェーズを経て、今後は既存資源の磨き上げや滞在時間の延伸など、持続可能性を重視した観光施策を着実に積み重ねていくことが重要であると考えております。

次に、御質問の 2 点目についてであります。観光地間競争が激化する中で、本町が通過点ではなく目的地として選ばれるためには、ここでしか体験できない価値の明確化と磨き上げが不可欠であります。

具体的には、三陸復興国立公園の自然環境、みちのく潮風トレイル、一次産業と連携した体験型プログラム、震災の教訓を伝える学びの場など、本町には既に一定の強みがあります。まずはこれらの質を高め、受入体制の安定化や情報発信の充実を図ることが目的地化への第一歩であると考えており、既存資源の磨き上げと関係団体との連携強化を重視し、段階的に取り組んでまいります。

次に、御質問の 3 点目についてであります。ネイチャーポジティブは、単なる環境配慮にとどまらず自然を回復軌道に乗せることを目指す概念であります。本町は豊かな森、里、海が最大の資源であり、自然の持続可能性なくして観光の持続可能性は成り立ちません。

これまでも自然環境を生かした観光や地産地消の推進など、サステナブルな取組を進めてまいりましたが、今後は一歩踏み込み、例えば、里山保全活動や植林体験を組み込んだツア

一造成や旅行代金の一部を自然保護活動へ還元する仕組みづくりなど、自然再生と観光を結びつけるツアー造成に向けて関係団体へ働きかけていきたいと思います。観光を通じて、自然を消費するのではなく守り育てる方向へ進化させることが、本町らしい観光の在り方であると考えております。

次に、御質問の４点目についてであります。本年１月より宿泊税が導入され、県においては約９億３,０００万円規模の観光振興策が示されました。地域周遊促進事業及び県内誘客拡大事業の二本柱により、市町村への交付金措置や広域的な誘客施策が展開されることとなっております。特に市町村が主体的に活用できる交付金制度や基金積立ての仕組みは、長中期的視点で観光施策を構築する上で有効であると受け止めております。

宿泊税は単なる財源確保ではなく、地域全体の観光価値を高めるための投資であるべきと考えており、本町としても、県と連携しながら地域の実情に即した効果的な事業展開を図ってまいります。

○議長（菅原辰雄君）　ここで昼食のための休憩といたします。再開は１時１０分といたします。

午前１１時５８分　休憩

午後　１時１０分　再開

○議長（菅原辰雄君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

伊藤俊議員の一般質問を続行いたします。伊藤俊議員。

○２番（伊藤　俊君）　では、午前中に御答弁いただきましたので、１件目、自席より質問を続けてまいります。

答弁のほうで、本当に重要性というのは町としても十分に認識されているということを伺うことができました。地域経済の循環装置であり、産業を横断する形でのプラットフォームというのが観光業だというふうに思っております。この位置づけは町長自身の答弁からも感じられました。

生産波及効果、付加価値効果の大きさもやはり特徴でございます。１つ数字出しますと、観光庁の旅行消費額の統計ですが、最新の数字が２０２３年で国全体で約３０兆円です。それを生産波及効果と付加価値効果に及ぶ数字を出すと約３倍に膨らむというふうな統計でございますので、やはり町にとっても産業をしっかり振興していくのは重要なまちづくりの位置づけではないかなというふうに思っております。

もう一つ、ぜひ町長に加えてほしいのは、総合産業であると同時に、ほかの施策に対する入

り口産業ではないかなというふうに思うんですが、その認識でよろしいでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） 観光業につきましては、交流人口の拡大もなんですけれども、当然ながら、そこから雇用も生まれるというふうな部分もございますし、そういった意味では一番は地域活性化です。そういった部分での役割というのは大きいのかなというふうに思っています。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） そういった意味で、その重要性をどう方向づけていくかなんですが、昨日、阿部議員のほうで総合計画のほうをお話しされましたけれども、観光に限ってその部分を拝見しますと、私的にはちょっと弱さを感じております。確かにリーディングプロジェクトだったりとか基本政策では、ある程度観光についても言及はされているんですが、とはいえ、先ほど答弁でも長中期的なという言葉も出てきましたが、ちょっと見えづらいなという部分は感じております。

町として、町民の皆さんから見ても分かりづらさをどう解消してどう具体的に実効性のある施策をやっていきますよというのは、やっぱり打ち出してほしいなというふうには思うんです。産業振興のための観光分野に特化した戦略とか計画は、私は必要性を感じるんですが、町長はどうお考えでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） 総合計画にも打ち出して、具体的にそこは総合戦略と併せて考えていかなければならないというふうに思うんですけれども、当然ながら、地域の力を生かした観光というふうな部分では、道の駅の管理、運営も含めた部分ですとか、あとは国内外の誘致プロモーションですか、そういった部分、あとは教育旅行の誘致ですとかインバウンドも含めたそういった誘致については、観光協会と協力しながらやっていっているというふうな認識でいるところでございます。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） それは承知しております。従来どおり例年、政策をいろいろ見ておりますと、観光協会さんを中心として様々な施策を打ち出している、本当に力を入れている部分ではあるというふうには認識しております。

が、何でこの話をしましたかと申しますと、予算ベースの話になれば、毎年やっぱり町の総予算が出て商工費で3%前後ですか、数値的には。商工費の中から、さらに観光分野に限定

した事業予算を見ると2%弱、約数十.2億円前後ぐらいが毎年打ち出されていて、それに基づいて進められているのは承知しているんですけども、やっぱり重要であるからこそ工夫が必要なんですけれども、もうちょっと積極的な打ち出し方をしてもいいのではないかなというのが1つです。

もう一つ、片一方の見方としては、観光予算というのはすごい投資的側面が強いと思うんです。限られた少ない予算の中で最大限の効果を生んできたのは今までの施策ではなかったかなと思うんですが、やっぱりその最大限の効果を生むためにも明確な戦略、マーケティング等を含め、町がこうやっていくんですよという打ち出し方は必要ではないかというふうに考えているんですが、再度その部分お聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） 予算の部分については、単純に観光というふうな部分での予算だけでなく、当然、これまで311メモリアルとかそういった部分は建設のほうの予算に入っておりますので、そういう部分で単純に予算で3%とか4%というふうな数字で測られるものではないのかなというふうな部分がございます。

今後の部分というふうな明確なというふうなお話ですけども、ちょっと答弁でもお話しさせていただきましたけれども、ちょっと細かい部分はあと担当課長のほうにお話をいただきますけれども、我々、今後やっていきたいというのは、教育旅行もそうですけれども、一次産業と連携した体験プログラムですとか震災の教訓、学びの場、本町のそういった特別な特殊な部分の磨き上げというふうな部分の質を高めて、受入体制の安定化を図っていきたいというふうなところでございます。

○議長（菅原辰雄君） 商工観光課長。

○商工観光課長（小野寺洋明君） 町長おっしゃるように、予算規模で最大限の効果が、予算を投資すればその分効果が上がるかという問題もございますし、限りある財源もございまして、限られた財源の中で最大限の効果を発揮できるような施策を鋭意努力してまいりたいと考えております。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） 言っていることは分かりますが、ちょっと回りくどくない言い方すると、いろいろな推進していく上でやっぱり計画って必要なんだろうなというふうには、どんな事業を見てもどんな分野を見ても思います。総合計画があつて実施計画があつて、それについて予算を考えるというふうな流れだと思いますので、そういう意味では、これは当町ではな

くてほかの自治体の例になってしまうんですけれども、具体的な観光振興計画というのは、主に結構北海道の自治体とかがすごく多いんじゃないかなと。その計画を見ると、単に観光計画ではなくて地域全体を活性化する計画になっていて、地域住民も巻き込んでいて、さらにロードマップもしっかりしている。

だから、単純に予算でどういう効果が出ますかという話だけではなくて、1年ではできないものも2年、3年とか時間かけていくことでそれが最大効果になっていくんだというのも、分かりづらいと、なかなか民間ベースでは戸惑いであったりとか、やっぱり積極的な事業の展開にはなかなか打ち出しにくいのではないかなという、これはあくまでちょっと感情的な気持ちも入っていますけれども、そういったところを含めて、やはり町として打ち出してほしい気持ちがあったので言及いたしました。

答弁のほうで、明確化していくとか磨き上げていくかという言葉はいただいたんですけれども、ちょっとやっぱり言葉が抽象的というか、細かい部分を突き詰めていくとこの一般質問では時間が足りませんので、また細かい施策は別な場でやるしかないんですけれども、とはいえ、明確化とか磨き上げという言葉はどう具体化していくかというのは、これからの作業になるんでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 商工観光課長。

○商工観光課長（小野寺洋明君） 磨き上げの作業につきましては、これからの作業となります。関係団体さんとかと協議をしながら進めていきたいと考えております。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） その中でどこまで目標を持ってやるのかとか、それは行政の計画の中ではK P Iで示すとかという手法もあると思うんですけれども、そうなってくるとやっぱり、繰り返しの話になるんですが、基本的な計画づくりまで行かなくても基本方針を打ち出すとかそういった作業はやっぱり必要ではないかなというふうに思っております。ちょっとこのままお話しすると、この場でアバウトな部分も具体的にできるかというとなかなか難しいので、また違う場で引き続きお話をさせていただきたいと思います。

では、2点目に行きます。目的地化の話です。

目的地化とは、そこにわざわざ行く理由を持つ地域になること。単に立ち寄りにならないということです。答弁のほうでも、繰り返しになりますけれども、明確化、磨き上げとか滞在時間を延ばしていく努力をすることというふうに御答弁いただきましたけれども、では、その目的地化を考える上で、やっぱり課題に対する整理というのが必要かなと思うんですが、

課題を幾つかこの場で挙げられるものがあればお示しいただきたいんですが、いかがでしょうか。この場で示せるもの。

○議長（菅原辰雄君） 答弁を求めます。千葉町長。

○町長（千葉 啓君） 課題は様々あると思うんです。交通の部分もあるのかなと思いますし、あとは受入体制等、あとは答弁の中でもお話ししましたがけれども、観光地の地域間の競争も当然あるというふうに思っております。いずれにしても、ここでしか体験できない、そういった価値というのはあると思いますので、そういった部分をちょっと深掘りしたいなというふうに思っているところでございます。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） 町長、今、御答弁いただきましたけれども、本当に構造的要因もあればそのほかの要因もあります。これは間違いないことだというふうに思います。全国的に見れば、インバウンドがすごく増えているというのは、もう国策ですので増えていることは間違いないですし、それに伴って経済効果も上がっていることは間違いないと思うんですが、南三陸町においては、そういう方向性ではないんじゃないかなというふうに思っております。これは、今、2期目になりましたけれども、1期目の一般質問の中でもいろいろやり取りさせていただいて、理解はしております。

時代は、特に団体旅行がすごく減少している時代なので、従来どおりの考え方とか従来どおりのやり方では、なかなか今町長おっしゃったように地域間競争にはなかなか勝っていけない、勝っていけないどころか置き去りになっていくというのが、情報があふれる社会の観光業だと思いますので、町長自身のほうで、今回の予算、また審査の中でもいろいろ話しますけれども、従来どおりの施策でいいと思う部分もあると思うんですが、新たな方向性を打ち出していくべきかどうかというのは、その辺までいろいろ考えていらっしゃるのかどうか、現在の所感をお聞かせいただけないでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） 8年度予算につきましては、正直いうとこれまでどおりの流れで予算をつけました。なぜかという、宿泊税の問題があつて、ちょっとその額を見極めて、補正になるかどうかあれですけども、そういった部分で今後の対応というふうな部分を検討させていただくというふうなところでございます。

いずれにしても、今、伊藤議員お話ししたように、観光価値がやはり変化しているというふうな部分はこちらでも認識しておりまして、物消費から事消費だったり時消費だったりとい

うふうなものになっておりますし、ただ、今お話あったように団体旅行から少人数とか個人とかそういった旅行の形態も変わってきているというふうな部分も認識しておりますので、そういった部分が反映できるような今後の考え方を持った予算組みをしていきたいというふうに思っています。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） いろいろ御答弁いただく中で、先ほど交通の問題とか受入体制とか、地域間競争のお話もいただきましたので、要はその課題をいかにどう整理して、それに対して課題を解決するためとか改善するための施策をどれだけ打てるか、ただ、それにはやっぱり財源も必要というのは流れとしては理解しておりますので、ぜひ、答弁にもあったように、独自性があるって一定のベースは当町にはあるということだと思いますので、ぜひ、そこを具体的にかつ積極的に進めていただければなというふうに思います。

そのために、ちょっとやっぱり今まで整理できていないという、今までも整理しようとされてこられたと思うんですけども、やっぱりなかなか時間もかかる作業だと思いますのでお聞きしたいと思うんですが、地方観光の本質的課題が整理されていなければやっぱり実効性は伴わないと考えていますので、まず1つ、売り出すものが曖昧であってはいけません。資源はたくさんあるけれども、編集されているのか、町独自のストーリー化されているのかという部分が1つ。

それから、プレーヤーが分断されてはいけません。それぞれそれぞれ強みがある方々がいらっしゃる。ですけども、それを結びつけないと最大の効果が発揮できない。これちょっと重要だと思うんですけども、やっぱりサービス業という特性があるせいか、単価がなかなか上がってこない。要は、すごく稼いでもそれに伴う価値がなかなか入ってこないというのが観光面の特徴かなというふうに思いますので、ぜひ、その辺も含めて考えていかなきゃなというふうに思っております。

お聞きしたいのは、その中でやっぱり担い手なんです。人がいなければどうしようもないので、これは前々回ぐらいの事業承継の一般質問でもやりましたけれども、やはり皆さん年は重ねておられます。本当に次に事業を継いでいくということを考えていかないと、今、本当にちょっと分岐点ぐらいに来ているのかなというのが、東日本大震災から15年後の今だというふうに思います。そういった意味で、高齢化ですとか後継者問題、特に観光面について町長はどのような考えを現時点で持っていらっしゃるか、お聞きしたいと思います。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） 担い手につきましては、観光業のみならず全産業共通の課題というふう
に認識しているところでございます。私、そもそも一次産業なくして観光業はないというふう
なことで、まず一次産業の担い手というふうなところで政策を打っていきたいというふう
に思っているところでございます。

観光業につきましては、前議員にもお話ししましたが、そういった語り部等、そうい
った部分での育成、そういった部分も当然ながら必要でございますし、そもそも先ほど一次
産業と結びつけるというふうなお話もさせていただいたんですけれども、そういった部分で
担い手が入り込みやすいような形の政策を打っていきたいというふうに思っています。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） 分かりました。

そうすると、やっぱり一次産業を再構築するというのは町長の公約でもありますし、一次産
業の担い手をやっぱりちゃんとつくっていくということであるというふうに思いますが、も
う一つ、やっぱりそこで視点を加えなきゃいけないのは、生産したものをやっぱりどう言わ
ば消費ですとか流通ですとか観光に接続させていく、要は、一次産業を再構築してつくるこ
とは、本当に生産者の皆さん一生懸命やられたとしても、やっぱりそれをどんどんどん
出していく仕組みがないと成り立っていかない。やっぱりさっきの答弁にもありましたよう
に総合循環ですよ、そういう意味では。そこを見据えての一次産業構築というふうに期待
しておりますので、ぜひ、そこは打ち出していきたいと思います。

2点目の最後の質問になりますけれども、目的地化において、結局、いろいろ話する中でも
やっぱり最後は人というキーワードになってくると思うんです。幾ら資源があっても観光施
設があっても、そこにおもてなしという言葉ですか、ホスピタリティーが欠けてしまうと、
リピート化していきませんしファンにもなかなかないような環境にはならないという
ふうに思います。そこを、観光協会さんが中心になると思うんですけれども、町としてどう
いうふうに民間の事業者の方々、関係者の皆様とホスピタリティー力を高めていくためには
どう連携してどうファンづくりに向き合っていくか、もしお考えがあるようでしたらお聞か
せください。

○議長（菅原辰雄君） 商工観光課長。

○商工観光課長（小野寺洋明君） 議員おっしゃるとおり、観光協会さんがメインになると思う
んですけれども、横のつながりを強化しておもてなしに取り組んでいきたいと考えておりま
す。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） 3番に移っていくんですが、3番も1番と2番と話はもう延長線上なんです。リピートもしてほしい、滞在時間も長くしてほしい、ファンにもなってほしい、いろいろ考えていくと、やっぱり消費していくだけの観光ではないんです。そういった意味で、今回、前回の議会の一般質問で後藤議員、ネイチャーポジティブをテーマにして質問されましたけれども、やっぱりこの考え方、理念というのは、観光にとってもすごく大事じゃないかなというふうに思ってテーマにさせていただきました。

さっきの答弁で、サステナブルから次の一步みたいな言葉がありましたので、単に持続性だけではなくてその次を目指していくんだという答弁に聞こえたんですけれども、そのような理解でいいのかという部分を再度お聞きしたいと思います。

サステナブルの発展形というのは、少し難しい言葉で横文字だけ並べてちょっと皆さんは分かりづらさがあるかもしれませんが、お許してください。リジェネラティブなツーリズムというのがもう世界的に見ても出始めていますので、1番の話の延長線上になれば、観光の未来戦略の軸になるんじゃないかなと。当町としての強みを最大に生かすネイチャーポジティブの視点を持ったツーリズム観光を軸にすべきではないかなと。再生型観光に取り組むことで、やっぱり当町というのは自然を未来につないで、それは町民の皆さんも同じというふうに理解しておりますので、そういった方向性を打ち出すことは大事ではないかなというふうに思うんですが、その点についてお考えがあればお聞きしたいと思います。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） サステナブルな取組というふうなお話をさせていただきました。繰り返しになる部分もあると思うんですけれども、例えば、里山保全の活動ですとか植林体験を組み込んだツアーの造成ですとか、あとは旅行代金の一部を自然保護活動へ還元する仕組み、そういった自然再生と観光を結びつけるツアー造成というふうな部分は、関係団体に働きかけてコンテンツ化できればなというふうに思っているところです。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） 今回、どこまでちょっと深くお聞きできるかはちょっと定かではないんですけれども、ツアー造成という言葉が繰り返し出てきておりますので、ツアー造成の見通しというか、どういうイメージで今後つくっていくかという何か方向性のイメージは持っていらっしゃるのかどうか。どういう形でどういう手順でとかというのが、まだ具体的にないかもしれないけれども、どういうふうになっていくのか、現段階でもし示せるも

のがあればお聞きしたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 商工観光課長。

○商工観光課長（小野寺洋明君） 現段階で、具体的にこういうふうにといいものはないんですけれども、町長答弁したとおり、自然保護活動へ還元する仕組みですとか、そういった仕組みができればなと考えておるところでございます。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） 既にやられている事例もあるんじゃないかなというふうにお見受けしていますので、それを単に単発であるとか限定したものにならないように、横のつながり横のつながりと言っていますけれども、それはしっかり体制としてつくっていただきたいなというふうに思っております。繰り返しになりますけれども、そこをぜひ計画性を持って、かつ実効性が持てるような施策の打ち出し方を、町民の皆さんもやっぱりしっかり知って分かるような施策実施を望みたいというふうに思います。

ちょっと今日の時点ではこういうアバウトな言い方しかはいできないと思いますが、ネイチャーポジティブ宣言に基づいていけば、やっぱり観光の形もまさに目指す方向はそちらかなというふうに思っておりますので、ぜひ、そこは当局の中でも横のつながりを持って進めていただきたいと思います。

では、4点目に行きます。

宿泊税に関連することでございますが、1月に導入されたばかりでございますので、なおかつ、まだ県議会の審議も今日から予算審査が始まるはずですので、ちょっとまだ決定しない段階で述べるのは時期早尚だったかもしれませんけれども、やっぱり考え方は来年度に向けてちょっとこの場で共有したかったので質問させていただきました。

県としては、やっぱり安定的な観光財源は確保したいというふうなことで導入をされたというふうに理解しているんですけども、宿泊税に対して、あくまで県の施策なんですけれども、町内の事業者からも当然徴収されていますので、町長として宿泊税に対する考え方というのは、必要性まで言及する必要はないと思うんですが、必要かどうかという部分はそこまですぐいいと思うんですけども、どういうふうに思っていらっしゃるかはお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） 宿泊税につきましては、単なる財源確保というふうな部分ではなくて、地域全体の観光価値を高めるための投資であるべきというふうに思っております。観光資源

の魅力の向上でしたり、あとは旅行者の受入環境の充実、あとはその他交流人口の拡大を図る施策に要する費用、そういった部分に町としては充てるために導入したいというふうに考えております。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） 大切な財源になると思いますので、ちょっと改めてもう少しお聞きしたいんですけども、結構導入までいろいろないきさつとかいろいろなやり取りあったのは間違いないですし、一度、最初導入するときに、コロナもあって1回話が立ち消えになってしまった後に再度また導入といういきさつがあったので、導入までのいきさつをちなみにどこまで把握されているかというのは、この場でもし示していただけたらと思うんですが、導入のいきさつとかというのは、町長自身はどこまで聞いていらっしゃるのでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） すみません、いきさつにつきましては、今、伊藤議員がお話しされたそういった順番といいますか、そういう一度話があって、コロナで、現在、今の状況というふうな部分でしかちょっと私のほうでは理解しているところであります。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） すみません、質問の仕方が悪かったです。

導入の最中にいろいろ事業者さんとの混乱もいろいろあった中で、やっぱり地元の声としてはなかなか厳しいものだなというふうに聞いておりますが、その辺の声を町長はどう受け止めていくのかなという意味の質問でしたので、もし、そういうことを聞いていらっしゃる中で町長自身がどう感じているか、もしあればお聞きしたかったんですが、その辺はおありでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） すみません、ちょっとそういったいろいろな議論があったというのは承知しております。

私、つい最近、ホテル観洋さんのほうに何度か行かせてもらう機会ございまして、お話も伺っているところでございます。その中では、私とのやり取りの中では、そういった宿泊税に対する様々な御意見はあると思うんですけども、あまりそういったネガティブな意見というのは聞いたことはございませんし、もう既に決定している部分でございまして、そこは前向きに捉えているのかなというふうに思っているところでございます。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） 答弁の中でも、地方自治体にも結局交付金が下りてくる見込みにもなっております。県の施策なんですけれども、徴収して地方自治体に交付金が下りていくことは、地方自治体にも使う側の責任があるのではないかなというふうに思いますので、そういった意味で、宿泊税の原資となるのは、今、ホテルの話もありましたけれども、町内全ての宿泊施設の方々、特に小規模な事業者の皆様にとってはやっぱり徴収事務だけでもすごく大変な状況ですし、そこを県としても補助は出しているんですけれども、補助には見えない負担というのはやっぱりあると思うんです。

そういった意味で、ぜひ宿泊税はもちろん有効かつ実効性のあるものに使っていただきたいんですけれども、何にしても宿泊業者さんがどんどんどんどん力がなくなってくると、本当に宿泊税自体も徴収できなくなってくる。単純に言えば、要は事業者さんが廃業しちゃえば宿泊税なくなるわけですから、財源がなくなっちゃうんです。ということは、やっぱり宿泊業者さん、町内全部の宿泊業に対する方々を行政としてやっぱりサポートしていくのは大切ではないかなというふうに思うんですが、その辺のケアとかサポートは今後どういうふうにされていくのかなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） ちょっと宿泊業者のサポートというふうな部分、すみません、具体的にイメージが湧かないんですけれども、ただ、そういった宿泊業者がなくならないように、宿泊税を利用して観光客をどんどん受け入れて、結果的に、その財源を利用してそういった宿泊業者の皆さんの利便性につながるような施策が取ればなというふうに思っているところでございます。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） まだ冒頭申し上げたとおり県議会の最中でございますので、まだこれからお話になると思うんですが、とはいえ、示されている施策案としては、なかなかメニュー的にたくさんあるんですけれども、宿泊業者に対する直接的なものはなかなか実はないのではないかなというふうに心配もしているところですので、単に還元だけではなくてしっかりと情報交換をするとか、県の施策ですから町として県にしっかりその辺の施策の改善を訴えていくとか、何せまだ導入して1年目でございますのでまだまだ改善の余地はありますし変えていく余地もあると思うので、その点を継続してお願いしたいと思いますが、その点はいかがでしょう。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） おっしゃるとおりだと思います。関係機関、町内の宿泊業者との話合いも含めて、その辺、県に要望するなりそういった部分での連携は図っていきたいと思っています。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） では、宿泊税についてもう一つだけ伺います。

今、連携という言葉がありましたので、施策を実施する上で、町単独でやるものもありますし、もう一つは圏域で、圏域というのは気仙沼・南三陸エリアなのか、それとも先ほどのGOLD浪漫なのかと、どういう圏域なのかはちょっとまた考えていく必要性はあると思うんですが、圏域観光の魅力事業というのもメニューにはあるようでございます。これは町単独ではなくて、県の地方振興事務所に予算が下りてきて県の地方振興事務所でやるもので、やっぱりそこをしっかりと連携していかないといけないなど。県の振興事務所ということはやっぱり気仙沼になってくると思いますので、メニュー化されれば圏域に取り組む企画も生まれると思います。

南三陸町として、今後、圏域連携を、簡単ではないと思うんです、地方自治体ごとに考え方が違うので。ただ、推進事業としてある以上、やっぱり考えていく必要性もあるので、今後、圏域連携をどのように見据えているか、お考えをお聞きしたいと思います。

○議長（菅原辰雄君） 商工観光課長。

○商工観光課長（小野寺洋明君） 圏域観光魅力向上推進事業ということで、議員おっしゃるとおり地方振興事務所に予算配分がされるものでございます。圏域での連携ということで、周遊ルートの造成ですとか連携したバスの運行ですとかといったものが考えられるのかなと考えております。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） 事業としてはイメージは示されているんですけども、私的にはそんなに簡単ではないだろうと、お互い協力関係をつくるにしても。そこはまた新年度になりましたら、ぜひ具体的にもう一度議論していきたいというふうに思います。

ぜひ、目的地化の話しましたが、選ばれる町、そして愛される町になっていくための観光戦略とマーケティングは、今後、ぜひ明確に打ち出していきたいというふうに期待しております。それを言及して、1件目の質問を終わりたいと思います。

では、2件目、テーマは未来の命を守るため今まで以上に災害伝承の取組強化をということで、東日本大震災の発災から15年となる今年、災害の記憶の風化が刻々と進んでおります。

現在は過去になり未来も現在になっていきますので、未来の命を守るという意味で、やっぱり伝承は継続的に重要であると考えます。

しかし、現場においては次世代の育成であったりとか活動資金確保など、課題は山積しております。これは構造的課題だというふうに思います。それを解決していくためには、やっぱり行政が担う役割と施策実施は必要であるというふうに思いますので、未来へ向かって持続的に伝承活動を継続させていくためどのように取り組んでいくか、以下を伺いたいと思います。

1 点目が、災害伝承についての位置づけ、取組の考えは。

2 点目が、今までの語り部活動への評価と今後については。

3 点目が、町と各関連団体との連携強化は。

4 点目が、命の教育、震災の語り継ぎについて取組は。

それぞれ町長と教育長に答弁を求めます。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） それでは、2 点目の御質問、未来の命を守るため今まで以上に災害伝承の取組強化をについてお答えいたします。

初めに、御質問の 1 点目についてであります。東日本大震災から15年が経過し記憶の風化が懸念される中、災害の教訓を後世に伝え将来の命を守る行動につなげていくことは、本町に課せられた重要な責務であると認識しております。

本町における災害伝承の取組は、単なる出来事の記録にとどまるものではなく、防災・減災教育の基盤であり、地域の歩みと教訓を次世代へ継承していくための重要な施策の 1 つであると位置づけております。

町は、これまで南三陸311メモリアルの運営を通じ、町内外の多くの方々に震災の教訓を伝えてまいりました。町民の皆様におかれましても、風化することのないよう日常の中で震災について語り合い、学び続けることが記憶をつなぐ有効な手段であると考えており、その一環として毎月11日を町民無料Dayとして設けております。家族や友人と震災について考え語り合う機会として、同施設を御活用いただければと考えております。

次に、御質問の 2 点目についてであります。震災直後から現在に至るまで語り部の皆様には、自らの体験を基に来訪者や児童生徒へ語り継いでこられたことは、本町の伝承活動の中核を担うものであり、高く評価すべき取組であると認識しております。一方で、担い手の高齢化や次世代育成といった課題が顕在化していることも事実であります。

今後は、語り部個人の献身に頼る体制から、より組織的かつ持続可能な仕組みへ段階的に移行していく必要があると考えており、その検討を進めていきたいと思っています。

最後に、御質問３点目についてであります。災害伝承は行政のみで完結するものではなく、語り部団体、観光協会、教育機関、地域住民など多様な主体の協働によって成り立つものがあります。そのため、必要に応じて情報共有の機会を設けるとともに、役割分担の整理や活動状況の把握に努め、各団体が円滑に活動できる環境づくりを進めていくことが重要であると認識しております。

災害伝承は、一過性の事業ではなく世代を超えて継続していくべき取組であります。行政としては、活動される皆様の主体性を尊重しつつ、持続可能な体制づくりを支える役割を果たしてまいります。

続いて、教育長から答弁させます。

○議長（菅原辰雄君） 小松教育長。

○教育長（小松祐治君） それでは、私から伊藤俊議員の御質問についてお答えいたします。

東日本大震災から15年の節目を迎えようとする中、児童生徒はもとより、保護者や教職員でも震災を知らない世代が学校現場の主役となってきております。記憶の風化を防ぎ、震災の教訓を次世代へ伝承していくことは、本町教育行政における最重要課題であると認識しております。

御質問の１点目についてであります。本町では、災害伝承を単なる知識の習得にとどまらず、自らの判断で行動し自他の命を守り抜く生きる力を育む教育の根幹として位置づけております。

具体的には、各小中学校において、年間指導計画に基づき各教科や志教育など、教育活動全般を通じた横断的な指導を実施しております。

また、町が作成した副読本「私たちの南三陸町」や県の副読本「未来へのきずな」を軸に地域に根差した学びを継続しております。

さらに、地震、津波だけでなく火災や大雨による土砂災害など、学校の立地に応じた多様な避難訓練を行い、常に振り返りと改善を重ねております。

次に、御質問の２点目についてであります。語り部活動は、震災を自分事として捉えるための極めて有効な手法であると考えます。南三陸高校では、令和６年に２年生が授業で取り組んだ語り部活動や台湾の高校生が震災の記録を伝えたk i z u n a留学生の活動は、メディアでも大きく取り上げられ、若者が伝承の担い手となることを内外に示しました。

小中学校におきましては、経験の浅い若手教員の急増と退職教員の増加が重なり、震災を経験した指導者が減少していることから、教育委員会が管理職を含めた転入教職員や新規採用教員全員に対し、南三陸311メモリアルや旧防災対策庁舎等での研修を実施し、継承を図っております。

最後に、御質問の4点目についてであります。命を守ることを大前提に、南三陸311メモリアルを積極的に活用し、児童生徒が震災の状況を自分事として考える機会を創出しております。

また、学校運営協議会委員等の専門的な知見や協力を仰ぐとともに、少年消防クラブの活動を通じ、規律や炊き出し、瓦礫撤去等々、瓦礫撤去訓練といった実践的な学びを深めております。

さらに、各小中学校で毎年3月11日前後に実施しているみやぎ鎮魂の日集会を通して、震災の犠牲者に哀悼の意を表すとともに、児童生徒には自他の命を守ること、そして教職員には子供の命を守り震災経験を語り継ぐ決意を新たにしているところでございます。

一方で、昨年7月に発生しましたカムチャツカ半島付近を震源とする地震では、保護者や地域住民との安全意識の差といった課題も浮き彫りになりました。

教育委員会といたしましては、学校、家庭、地域が一体となって未来の子供たちの命を守るという責務の下、引き続き関係機関と連携し着実に取組を進めてまいります。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） では、御答弁いただきましたので質問を続けてまいります。観光のテーマと同じくこのテーマも重要であるというふうに御答弁いただきましたので、ただ、もう少し細部お聞きしていきたいというふうに思います。再度の確認になるかもしれませんが、もう少しお話ししていただきたいので質問いたします。

先日の地元紙、自治体の復興調査アンケートにおいて、千葉町長自身がアンケートの回答で実効性のある防災・減災体制の構築に言及されておられました。それを災害伝承とどういうふうに関連づけてお考えなのか、答弁重なるかもしれませんが、もう一度お聞きしたいと思います。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） そういった震災伝承の取組につきましては、単なる出来事の記録ではございませんので、そういった意味で防災・減災、そういった部分の教育の基盤であったり、あとは地域のそういった震災からの復興、そういった歩みを次世代つなげていくというふう

な重要な役割だというふうに思っているところでございます。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） そうすると、そのためには、単に東日本大震災でいろいろ生まれた教訓であつたりとか伝えていくべきことをだけではなく、やっぱり当町の自然環境であつたりですとか歴史、文化、なりわい、伝統も、聞き手側からするとやっぱり聞きたい部分でもありますし、やっぱりそこを総合的に伝えていかないと、単に町長おっしゃるように災害の出来事だけを伝えていくことになりかねない。いや、もっと広い視野で伝承というものをやっぱりしていく必要があるのではないかなというのは、前議員の一般質問でも恐らくそういうふうなイメージだったのかなというふうに私は思っております。

そういう中で、今、メモリアルのお話はたくさん出てきたんですけれども、では、実際にやっぱり、どんな方というのは変ですけども、いろいろな来町者の方とかメモリアルの来場者の代表者の方々に聞いてみても、やっぱり現地に来て初めて分かったことがあるという言葉は非常に多い。

そういう意味で、ちょっとこれは聞いてみたいと思うんですが、町長自身、ラーニングプログラムではなくて実際に語り部さんが案内されているガイドのお話というのは、実際に体験されたことがあるんでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） 残念ながらございません。

○議長（菅原辰雄君） ここで暫時休憩いたします。再開は2時20分といたします。

午後2時01分 休憩

午後2時20分 再開

○議長（菅原辰雄君） 休憩前に続き会議を開きます。

伊藤俊議員の一般質問を続行いたします。伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） では、続けてまいります。

では、先ほどの質問に御答弁いただきましたが、お忙しいとは思いますが、ぜひ一度御家族で体験していただきたいなというふうに思います。そうしてみるとやっぱり分かることって、単に話を聞くだけではなくて、どういうふうに取り組んでいるかという熱量的なものも恐らく感じられると思うので、ぜひ機会をつくっていただければというふうに思います。

あともう一つ、伝承の位置づけについてのお話なので、ちょっとここはぜひまた今後取り組

んでほしい部分なんです、どうしても震災学習というと東日本大震災というふうになんか結びつけてしまっている現状もあるのではないかなと思うんですが、当町にとってはチリ地震津波の伝承も非常に重要な部分だというふうに思っております。

とはいえ、もう66年時間がたっておりますので、もう改めてここもしっかり伝えていくんだということをしていかないと、東日本大震災以上にチリ地震津波というのは形骸化していくんじゃないかなというふうにも感じておりますので、チリ地震津波の伝承をどうしていくかという考えがあればちょっとお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） これまでの防災の考え方、それから、要は過去の災害の考え方をもって現在の取組があるというふうに考えれば、当然ながらチリ地震津波の教訓がもうそれも含めて現在のそういった防災の取組として生きているのではないかなというふうに思っています。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） そうだと思います。災害というのは歴史上何回も繰り返されておりますし、結局、前の災害を経験したからといって次の災害で必ず助かるかということそうではないというのも、歴史をたどっていけばそういうふうに残念ながらなっているということでもありますので、ぜひ、東日本大震災だけに特化することなく、当町としての伝承というものをやっぱりちゃんと考えていかなきゃなというふうに思いますし、あと一番最初の質問で実効性ある防災・減災体制の構築に取り組んでいきたいという町長のお気持ちを鑑みて、ぜひどうか、このタイミングの踏み出し方というのもすごく大事ではないかなというふうに思います。

今年15年経過で、どうしてもどうしても世間の関心というか社会の関心を見ていくと、どうしても5年とか10年の間、10年とか15年の間の中では、どうしても一度関心の低下が起きたりとか、それに伴って記憶の風化というのはどうしても起きてしまっているもので、やっぱりこの15年の今というのは踏み出す一歩なんじゃないかなと思います。今年、追悼式も再開されるということですので、令和8年度にやっていくべきこと、打ち出していることの中ではタイミングは非常にいいときではないかなというふうに思っております。

もう一つは、さっき歴史上の話になっちゃいましたが、結局、百年に一回とか千年に一回とかってよくどこかで聞いた言葉出てきますけれども、そうではないんですよね。もう30年、40年スパンの中で大きな災害が繰り返されているということを考えれば、もう残り時間というのは変ですけども、次への災害の時間は待ったなしだというふうにも捉えること

ができますので、積極的な政策を打ち出すタイミング、その重要度を重々御承知であるならば、それをどう出していくタイミングというのもすごく大事なあとだと思いますので、令和8年度、15年目についての取り組み方、もう一度お聞かせいただけないでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） 15年前に生まれた子供が今年中学校を卒業するというふうな状況です。ますます震災を知らない世代というのが多くなっているというふうな部分はひしひしと実感しているというふうなところがございますし、具体的に今この場で、じゃあ15年目だから、いいタイミングだから何かをやるというのはちょっと今ないんですけれども、ただ、先ほど語り部を聞いたことがありますかという質問の中で、正直お金を払ってバスで回って聞いたことはないんですけれども、取組自体は、いろいろな表彰をされた方の取組とか聞いてはしているつもりではおります。

そういった中で、語り部の方の言葉というのは、未来の命を守るための知恵だったり、あとは教科書だったりというふうなことだと思いますので、そういった部分が活かされるような取組というふうな部分を考えていきたいというふうに思っています。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） では、2点目に行きます。

いろいろ2点目については、答弁の中でいろいろ高い評価をしているということは伺いましたが、ちょっと今後の話を中心にしていきたいと思うんですけれども、その前にすみません、一番最初に言い忘れていたことがありまして、今回の質問は、どちらかといえばハードの部分といわゆる震災遺構と言われる建物や震災伝承関連施設ではなくて、そうではない部分にちょっと焦点を当てて質問を続けておりますので御承知おきください。

その上で、ぜひ取り組んでいってほしいなという部分なんですけれども、大事な論点をちょっと2つに絞ります、今日は。真実をより正確に歪曲しないように伝えていくためには、実相をしっかりすること。これは、今は直接体験した方が伝えているケースが多いんですが、今後体験した方が伝えていく上で、実相というのはこれを整理することがすごく重要になってくると思います。

当町では、記念誌は編集されていていろいろな情報は記念誌の中でも、復興の道のりが中心だと思うんですけれども、資料としてはあるんですが、現場の声を聞きますと、やっぱり案内をする上で、そこで、例えば、戸倉であったこと、志津川の中でもここであったこと、ここであったことという確実な実相を伝える上での材料的なものが、やっぱりまだまだ整って

いないのではないかなと。どうしても自分で調べて自分でいろいろな情報を得てそこから聞いたものを、当事者ではないのでやっぱりかもしれないみたいな、そうであったんだろうなというふうなことしか言えないということも聞いておりますので、ぜひ、ここは町として基盤とか仕組みをつくる役割を担っていただきたいので、実相をしっかりと整理して記録をまとめていく作業というのは、その努力は必要じゃないかなというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） 取組として、今、お話しされたように創造だとかそういうことではなくて、実際あったこと、それに基づく確実な根拠があつての話というふうな部分は必要でありますし、そういった基盤についてちょっとその辺は検討をさせていただきます。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） ぜひ、検討を進めてください。

先ほど、答弁の中で高齢化であつたりとか育成の話も一定程度いただきましたので、またちょっと違う機会でもお話ししたいと思うんですが、1つ加えるのであれば、現在、頑張っている方々に対して、すぐに町のオフィシャルとして認定してくださいとかそういう話ではなくて、やはり学び続ける必要性というのは伝え手も継続して必要、単に伝え手側から今持っているものだけを伝えるのではなくて、どんどんどんどんレベルアップ、研さんというのは必要性があるわけですね。次世代の育成につなげていくためにも、今、頑張っている方々のスキルアップですとか、そういったものを図っていく取組というのは可能でしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） そういったスキルアップというのは必要だというふうに思っておりますし、語り部活動の実施団体及び復興庁のほうから、語り部等の感謝状受賞者、伊藤議員もその中に入っておりますけれども、そういった現在、5団体14名の方が受賞者というようなことでございますので、そういった方々と協力しながらスキルアップ、あとは様々な実相も含めて研修の場というのは必要であるし、そういった取組につきましても検討させていただきます。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） では、3点目に行きます。

町と各関連団体との連携強化はということで質問項目に加えさせていただきました。今、い

ろいろな方々との連携というのは必要性はすごく感じているんですけども、ちょっとここでは1つ、この1点にちょっと絞ってお聞きしたいんですが、もう既に取り組んでいらっしゃると思うんです、今までも。町と、例えば、宮城県であったりとか各震災伝承関連団体との連携というのはやってきたというふうに思います。

それに伴って、民間の組織の中では具体的にツアー造成も図られていますし、それを販売して実際に地域に足を運んでもらう取組もされている中で、とはいえ、ちょっと気になっているのが、そういった関連団体と連携するために、例えば、宮城県でいうと震災伝承のコンソーシアムが立ち上がっていますけれども、名前は入っているんですが、なかなかじゃあ積極的関わっているかどうかというのがちょっと見えづらい、失礼な言い方になるかもしれませんが、名前だけ書いていてもしょうがないですね、連携を図るからには。そこをもう少し強化していかないと、要は名前だけ、名義だけという形骸化していくことを心配していますので、そうならないように連携強化はというふうに尋ねましたが、どういうふうにしていくか、ぜひお示してください。

○議長（菅原辰雄君） 千葉町長。

○町長（千葉 啓君） なかなか、そういったコンソーシアムを組んでいるというふうなお話もありましたけれども、行政だけで完結できるものでもございませんので、そこは必要に応じて情報共有だったり、あとは役割分担の整理ですとかそういった部分が必要なのかなあというふうに思います。

いずれにしても、各団体が円滑に活動できる環境づくりというふうな部分は進めていかなければならないというふうに思っています。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） ぜひ、積極的にやっていただきたいというふうに思います。

それでは、最後、4点目の項目に入ります。

教育長に主にお尋ねしたいと思うんですが、命の教育、震災の語り継ぎをテーマにさせていただきました。

まず1つ目が、実際にいろいろ取り組んでいらっしゃることは答弁で分かりましたが、とはいえ、やはりこれも先日の町の担い手の方々の意見交換会の中では、やっぱり学校現場で語るということはなかなか機会が少ないというふうな声は1つ2つではなかったもので、もちろん学校としてはいろいろ調整が大変な中でどういうふうやっていくかというのは工夫が必要かもしれませんが、どう入り口をつくっていくか、やっぱりここは一步踏み込んでいき

いなというふうに語り手側の思いとしては強いんですけども、小学生、中学生、高校生とそれぞれ成長段階が違うのでテーマもそれぞれ異なると思うんですが、それを体系的につくっていく取組はぜひ具体的に必要かなと思うんですが、その点はいかがでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 小松教育長。

○教育長（小松祐治君） では、お答えさせていただきます。

先ほども申し上げたとおり、今、小中学生は全員震災後の生まれ、来年ももちろんそうです。それから、今後採用される教員についても、今年の新規採用者は当時8歳、これからどんどん震災後生まれの教員もどんどん増えてきて、体験している教員がどんどん退職という状況になることは重々承知しております。

今、お話しいただいた伝承というところで、語り部を今なさっている方々の学校で語る機会であったり学ぶ機会ということですが、このようにちょっと考えております。先ほども申し上げたとおり、各校では工夫しながら学年に応じた勉強の機会を設け、東日本大震災のことももちろんですが、そのほかの身を守るということについても学習しているところですが、現在は、各学校の地域性や特色によって学校ごとのカリキュラムで組んでいるところがありますが、今後、東日本大震災であった大きな出来事を一様に同じように子供たちに教えていくという点に関しては、ある程度、これだけは同じ内容をしっかり教えなくちゃならないということは今後整理していく必要があるのかなと思います。

それはなぜかという、教える側も震災を知らない世代になってきますので自分の体験を語れないので、自分が学んだことを伝えるということを構築していく必要があるのかなあと考えております。

そのためには、町では各校に防災担当主任がいますので、その会議もありますので、今のところの思いとしては、防災担当者を中心に今行っている学校の学習状況等を洗い出して、一緒にできることを、それから共通のカリキュラムについても来年度以降少し考えながら、今後の伝承について考えていきたいと思っております。

それから、子供たちの学ぶ機会として、私も現職でいたときも直接学校に語り部をなさっている方を招いて聞く機会はありませんでした。ただ、これからより震災のことをしっかりと学んでどんどん成長していくためには、学年段階に応じた語り部の方をゲストティーチャーとして招いて学ぶ機会というのはできるものではないかなあと考えております。

ただ、学校によって地域性であったり1年生、2年生にどこまでお話しできるのかとか、五、六年生であればある程度の災害のこととか命を救う手だてであるとか体験したことをしっか

りとお伝えしていただくことが、今後の小学生、中学生の生きるための力になったり、さらに自分の下の世代に伝えていくという力にもなるのかなあと考えておりますので、今、議員からいただいたことは校長会議で共有をして、できるところから進めてまいりたいと思います。

また、震災の伝承については、学校だけが一輪車で頑張ってもなかなか成果が上がらないと思いますので、そこは家庭のほうにもしっかりと趣旨と御協力をお願いすること、それから、今、学校ではPTAやそれから学校運営協議会も学校の運営に関わっておりますので、そちらのほうの協力もいただきながら、どのような震災の伝承の方法が今後の子供たちの育成にとって、町にとっていいのかをしっかりと考えながら取り組んでまいりたいと思います。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） 非常に詳しい答弁ありがとうございます。

今、お話ありましたとおり学校でできることもある、そして地域でできることもある、家庭でできることもある。いろいろやっぱり役割分担の整理も必要かなあというふうに思うんですが、やっぱり震災の特徴的なのは、家庭内で伝える機会がなかなかつくりづらい家庭構成になってしまっているというのが、震災復興を終えた今の状況ではないかな。要は、なかなか3世代へ住む家庭環境というのがやっぱり社会環境も含めて少なくなっているんで、おじいちゃん、おばあちゃんの知恵とかというのがなかなか、災害だけじゃなくて地域の知恵としてやっぱり家庭内で伝わりづらくなっているというのはどうしても否めないのかなというふうに思います。

そういう中で、学校でできることもありますし学校でできることの限界もあると思うので、今、教育長おっしゃったように、地域との連携というのはすごくまたこれも選択肢の1つかなあと 생각합니다。学習カリキュラム以外でもそういった場をつくっていただけるのかどうか、そういう展開イメージはあるのかどうか、お聞かせいただいてよろしいでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 小松教育長。

○教育長（小松祐治君） カリキュラムというと年間の学習指導に含まれていることで、防災関係だと学級活動の時間であるとか、あとはけがの防止だと保健の勉強だったりするということが、それから総合的な学習で学ぶ機会等が考えられます。

それ以外ということだと、3.11の前後で、集会という形で学習ではないんですけれども、校長もしくは校長に代わる者が3.11に思いをはせて全校児童生徒に震災時の様子や命の大切さについて話す機会等を設けております。それに外部の講師をお呼びすることもありますし、

もしくは、私は自分で自分の体験を基に子供たちに伝えたところでありまして、それから、町内の学校は志津川小学校のことしか分からないんですけども、集会は必ず校庭で町が見える場所に全員が集合して、そこで、子供たちはもちろん昔の町の様子は分からないんですけども、今ある町の姿と当時の震災に思いをはせて黙祷を上げた上でお話をするとか、そういう知識としてこういうことがあったという学習だけではなくて、亡くなった方への思いをはせたり自分の命を大事にするということも、今後、そのような機会も大事にしていきたいと考えております。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） いろいろな取組がある中で、ぜひ、今後なんですけれども、何でこれをやらなければいけないのかというより、やらなければいけないかというのは変な話で、結局、防災・減災の生きる力そのものを育むというふうな言葉ありましたので、もう日常生活の中でいろいろな学校の授業だけではなくて、学級活動だけではなくて、いろいろな要素が全て生きる力を育むことに変わっているということの本質をやっぱり分からないまんま、授業だからとか学校だからというだけでは、やっぱりいずれ子供たちの中でも優先度とか重要度は高まってこないんじゃないかなという感じはしているんです。

あくまで一例ですけれども、例えば、地域コミュニティーが大切です。挨拶が大切です。でも、やっぱり挨拶が大事だよ、挨拶しなきゃいけないんだよというだけでは、本質が何なのか見えていないまんまやっているような、やっているだけの様な形であっては、これは本物にならないかなというふうに思いますので、学校の現場もそうなんですけれども、さっき答弁ありました家庭も地域もそういった同じ方向性を見て、ぜひ、この部分を伝承の活動ですとか語り継ぎを積極的に行うための土台にさせていただきたいと思います。

そういう意味で最後にお聞きしたいと思うんですが、今後に期待を込めて、すぐやってくださいとかやるやらないではなくて、ぜひ考えてくださいというふうな意味合いを込めてお聞きしたいと思うんですが、国も今後防災庁を立ち上げる方向性で、今回の宮城県知事の今期における重要目標の中でも震災伝承はすごく言及されておりました。ますます重要度が高まっていったのではないかなと思います。

それに伴って、各国・県、各自治体において、地域特性に根差した教訓の整理とか伝承の仕組み化であったりとか、そういったものも実効性あるものにしていくための計画づくりというのが進んでおります。各自治体、教育委員会も含めてなんですけれども、そういう意味で、すぐすぐこうですというのはならないんですけども、ぜひ方向性として検討の1つに加え

ていただければと思います。その災害伝承基本計画、もしくは基本方針を町としてしっかりお伝えすること、広げていくことを期待しておりますが、その点についてはお聞きしたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（菅原辰雄君） 小松教育長。

○教育長（小松祐治君） 今、議員おっしゃられたように、国も挙げて今後の伝承について力を入れているということは私も報道等では承知しているところでございます。

今言ったとおり、学校のほうはこれまで、慣例ではないですけれども、それぞれが持っている知識を、自分の体験であったり学校のカリキュラムを基にはしていますけれども、自分の体験等も大きなウエートを占めていたと思いますので、それも含め町内の学校で体系的なもの、先ほども申し上げたとおり防災担当等を中心に学習内容については必要なものを考えていくということ。それから、学校のほうには防災計画は必ず学校教育計画の中には盛り込まれてはいるんですけれども、その中に、今おっしゃられたような伝承という意味合いもしつかりと年間の計画に盛り込めるように、校長会を通して学校のほうには働きかけてまいりたいと思いますし、言うだけではなくて教育委員会が主導として学校のほうと一緒にやっていきたいなと思います。

○議長（菅原辰雄君） 伊藤俊議員。

○2番（伊藤 俊君） 今、教育長おっしゃいましたけれども、本当に我々も含めですが、子供たちがしっかりまた、単に災害を伝えていく知識を得るだけではなくて、それをどう生かすか、どう自分の力に変えていくか、そのためのプラットフォームではないんですけれども、仕組み、土台というのを個人ではなく組織化というお話がありますので、ぜひ町長先頭に立ってつくっていくことを期待して、今回の一般質問を終わります。

○議長（菅原辰雄君） 以上で伊藤俊議員の一般質問を終わります。

お諮りいたします。本日は議事の関係上これにて延会することとし、明5日午前10時より本会議を再開し、本日の議事を継続することにしたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（菅原辰雄君） 異議なしと認めます。よって、本日は議事の関係上これにて延会することとし、明5日午前10時より本会議を再開し、本日の議事を継続することといたします。

本日はこれをもって延会といたします。

午後2時49分 延会

